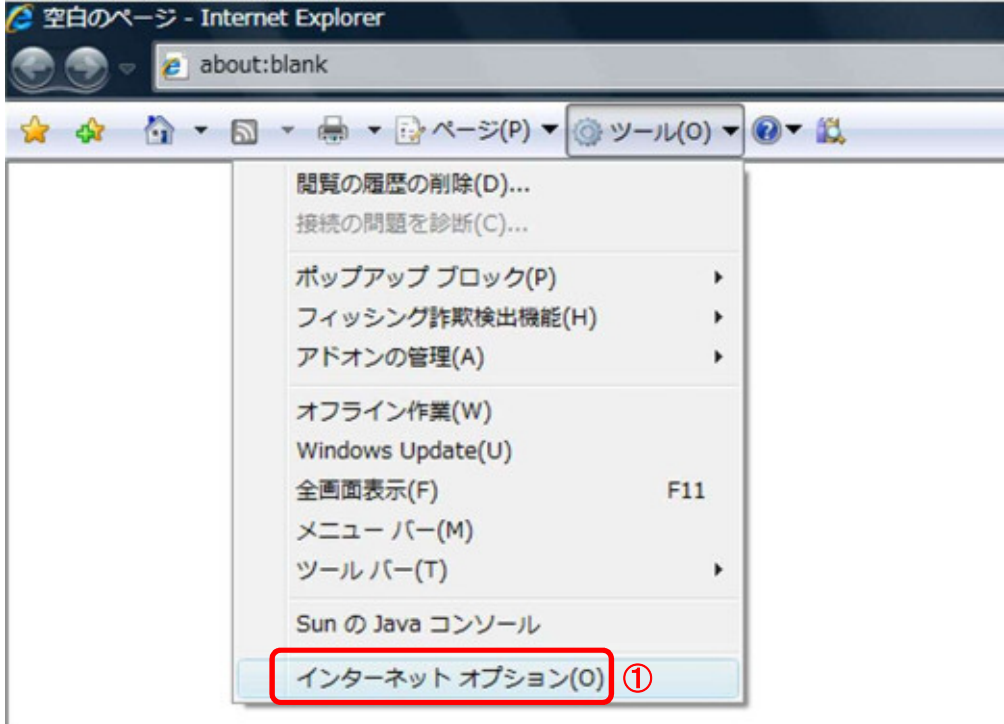


①信頼済みサイトの設定

※Windows8.1をご利用の場合は、デスクトップ画面よりInternet Explorerを開いてください。

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]—[インターネットオプション]①をクリックします。



2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

(1)[セキュリティ]タブ①をクリックします。

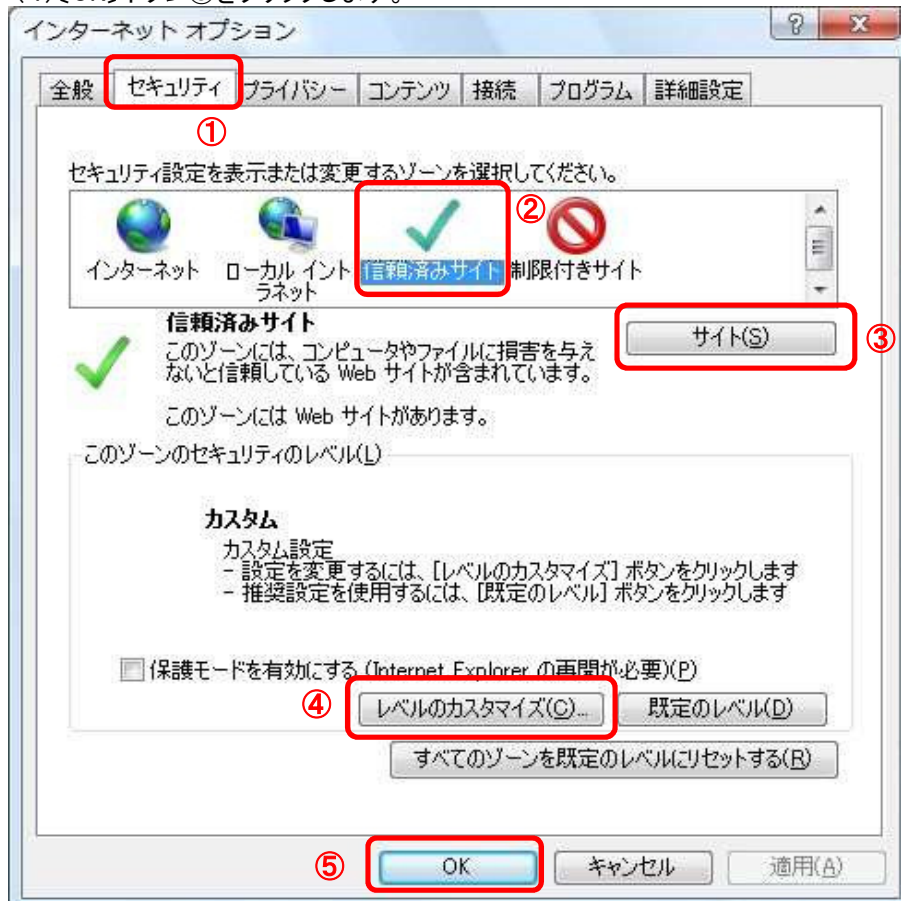
(2)[信頼済みサイト]②をクリックし、[サイト]ボタン③をクリックします。

→2. 1. 信頼済みサイトダイアログ (1)へ

(3)[レベルのカスタマイズ]ボタン④をクリックします。

2. 2. セキュリティ設定—信頼されたゾーンダイアログ (1)へ

(4)[OK]ボタン⑤をクリックします。



2. 1. 信頼済みサイトダイアログにて以下の操作を行います。
- (1) [次のWebサイトをゾーンに追加する]欄①に下記「電子入札URL」に示すアドレスを一行ずつ入力します。
 - (2) [追加]ボタン②をクリックし、[Webサイト]にURLが追加されたことを確認します。
 - (3) 上記(1)～(2)を必要なURL分行います。

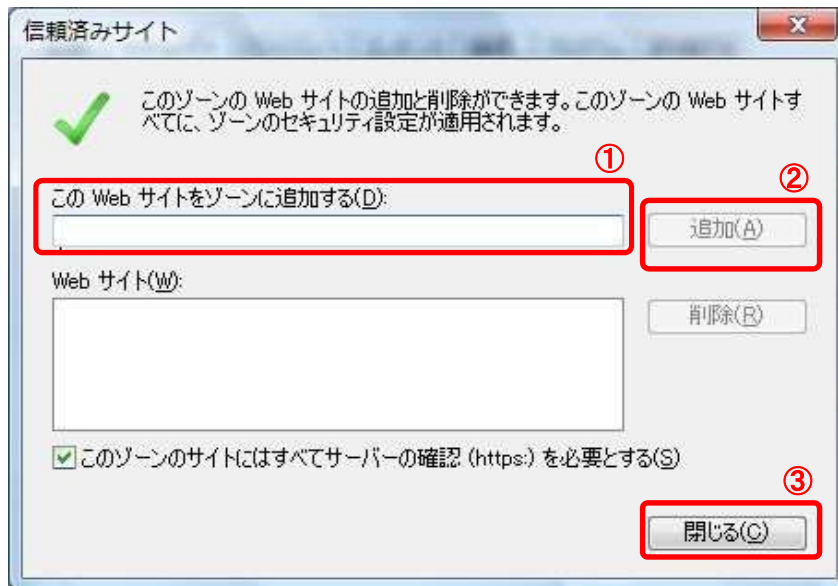
電子入札URL

受注者: <https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/>

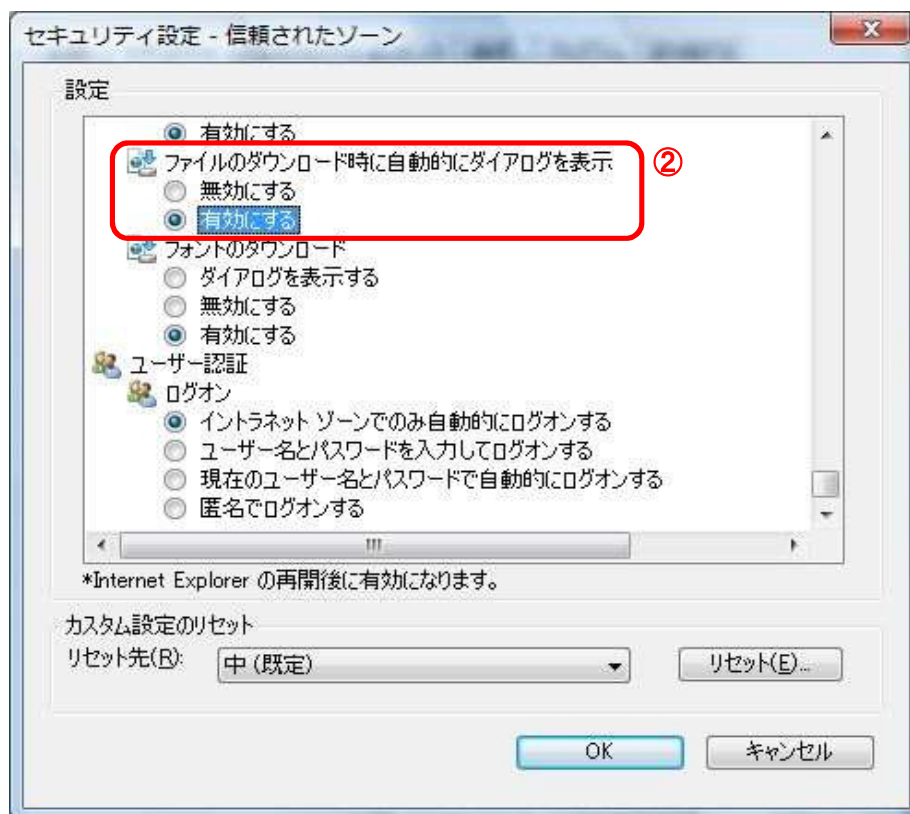
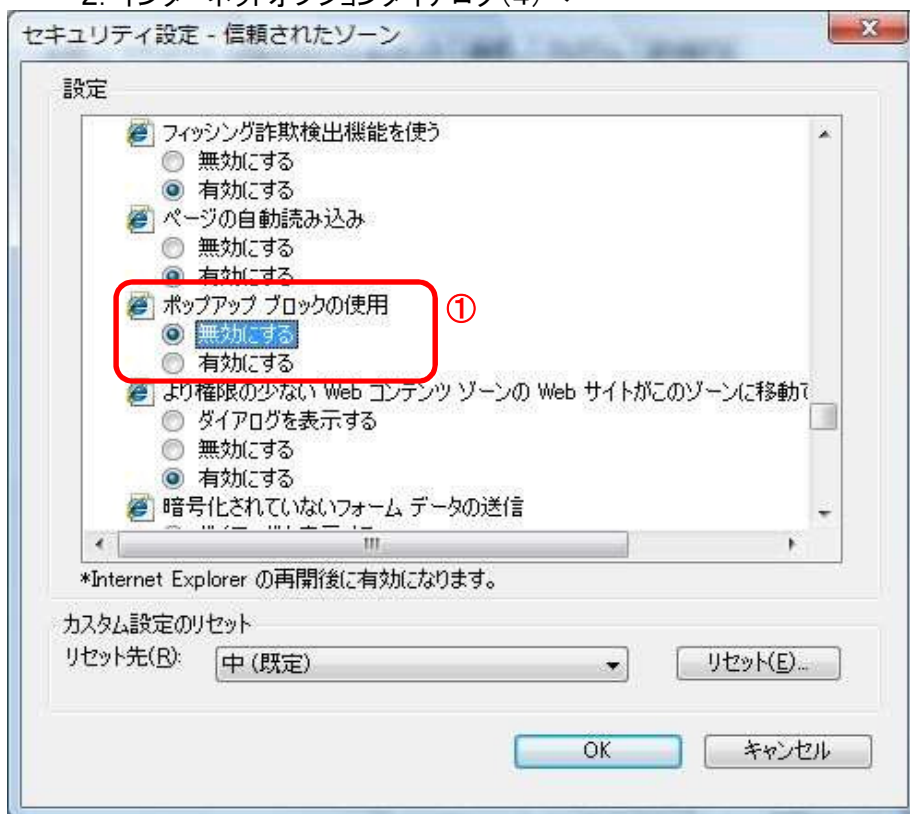
<https://www.epi-asp.fwd.ne.jp/>

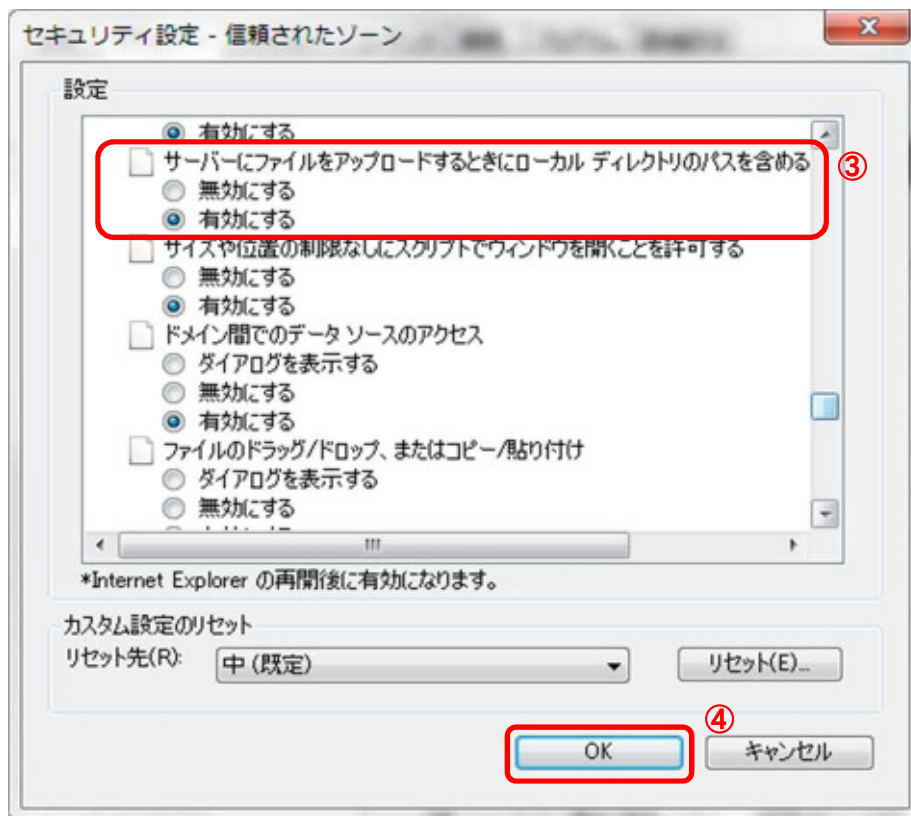
(入札情報公開システムを利用する場合のみ必要)

- (4) [閉じる]ボタン③をクリックします。(Internet Explorer6の場合は[OK]ボタン)
→2. インターネットオプションダイアログ(3)へ



2. 2. セキュリティ設定 - 信頼されたゾーンにて以下の操作を行います。
 - (1) [ポップアップブロックの使用]①を[無効にする]に変更します。
 - (2) [ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示]②を[有効にする]に変更します。
 ※Internet Explorer 9以降にはこの設定項目が無い場合、設定は不要です。
 - (3) [サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める]③が[有効にする]であること確認します。
 ※通常の初期設定は[有効にする]です。[無効にする]が選択されている場合は[有効にする]に変更してください。
 - (4) [OK]ボタン④をクリックします。
- 2. インターネットオプションダイアログ(4)へ





3. Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。

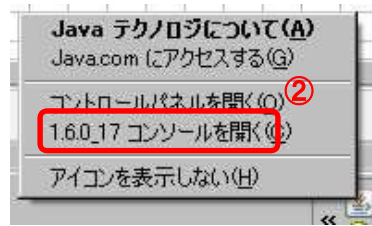
以上で設定は終了です。

②Javaバージョン確認

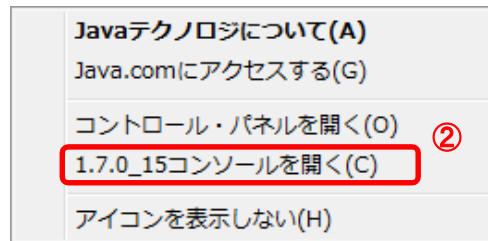
・JAVAのバージョンは以下の方法でご確認ください。

1. 電子入札使用中にタスクバーや通知領域に表示されるJavaのアイコン①を右クリックし、[コンソールを開く]②をクリック

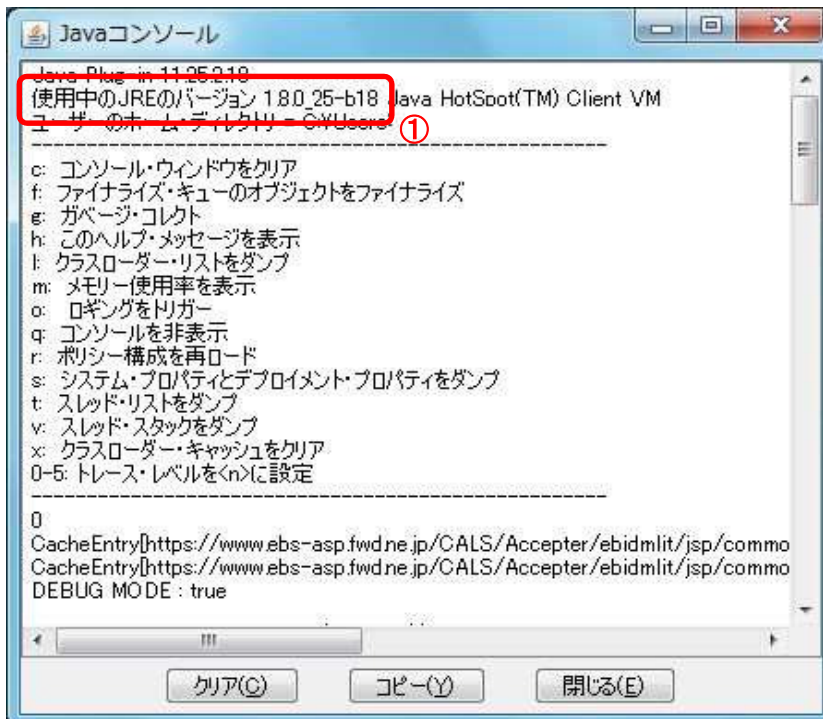
・タスクバーの場合



・通知領域の場合



2. 画面に表示されるバージョン①を確認します。



③IEキャッシュクリア手順

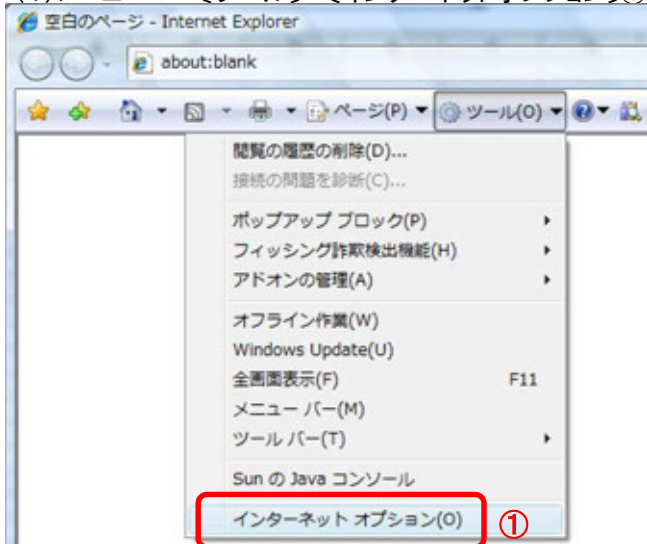
・設定手順はバージョンにより異なります。以下のご利用のバージョンの手順をご参照ください。
※Windows8.1をご利用の場合は、デスクトップ画面よりInternet Explorerを開いてください。

- A. Internet Explorer 7 の場合
- B. Internet Explorer 8 の場合
- C. Internet Explorer 9 の場合
- D. Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11 の場合

A. Internet Explorer 7 の場合

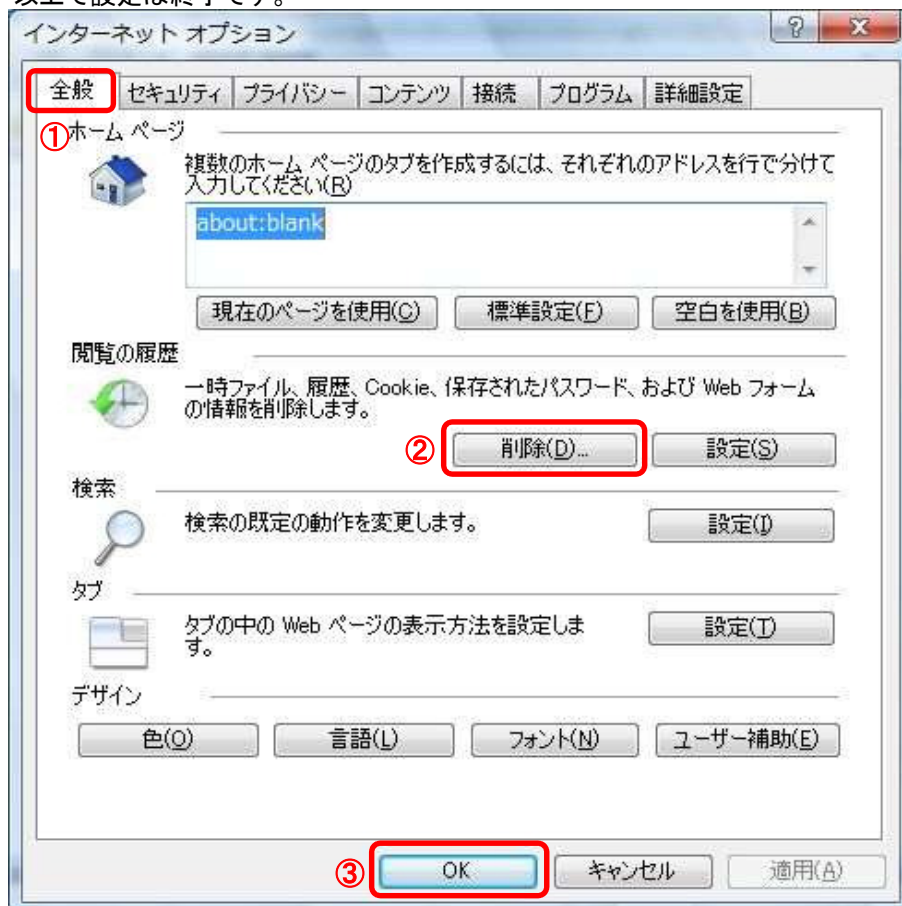
1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]ー[インターネットオプション]①をクリックします。

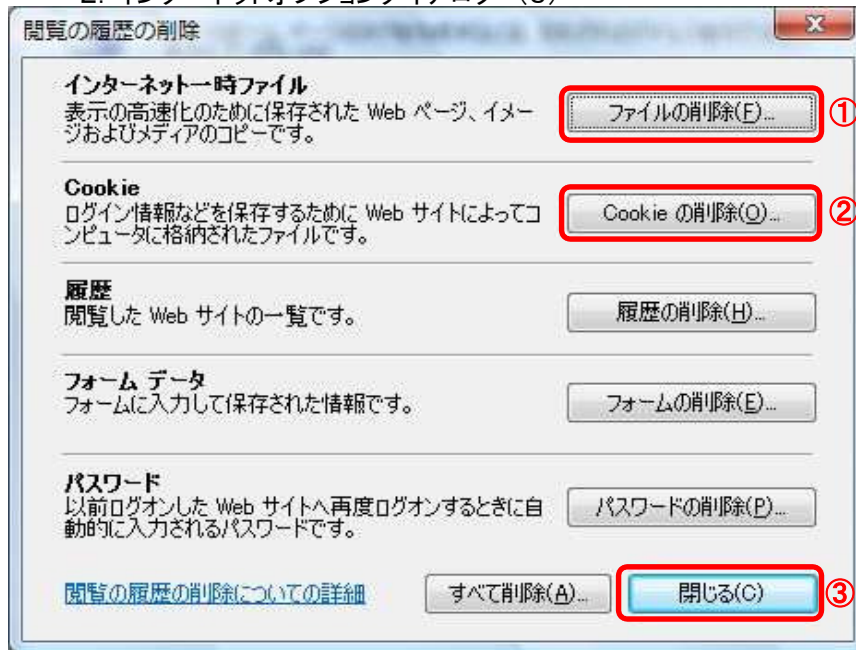


2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

- (1)[全般]タブ①をクリックします。
 - (2)「閲覧の履歴」にある「削除」ボタン②をクリックします。
→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (1)へ
 - (3)[OK]ボタン③をクリックします。
- 以上で設定は終了です。



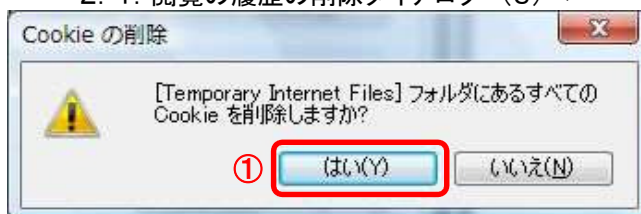
2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1)「インターネット一時ファイル」にある[ファイルの削除]ボタン①をクリックします。
→2. 1. 1. ファイルの削除ダイアログ (1)へ
 - (2)「Cookie」にある[Cookieの削除]ボタン②をクリックします。
→2. 1. 2. Cookieの削除ダイアログ (1)へ
 - (3)[閉じる]ボタン③をクリックします。
→2. インターネットオプションダイアログ (3)へ



2. 1. 1. ファイルの削除ダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1)[OK]ボタン①をクリックします。
→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (2)へ



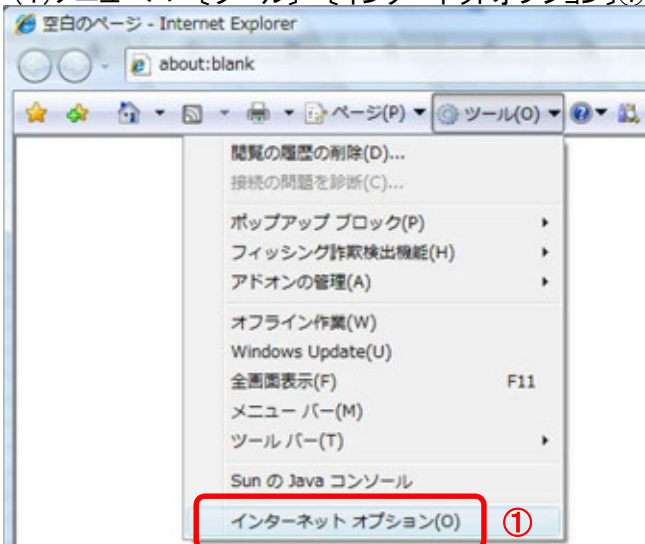
2. 1. 2. ファイルの削除ダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1)[OK]ボタン①をクリックします。
→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (3)へ



B. Internet Explorer 8 の場合

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]—[インターネットオプション]①をクリックします。



2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

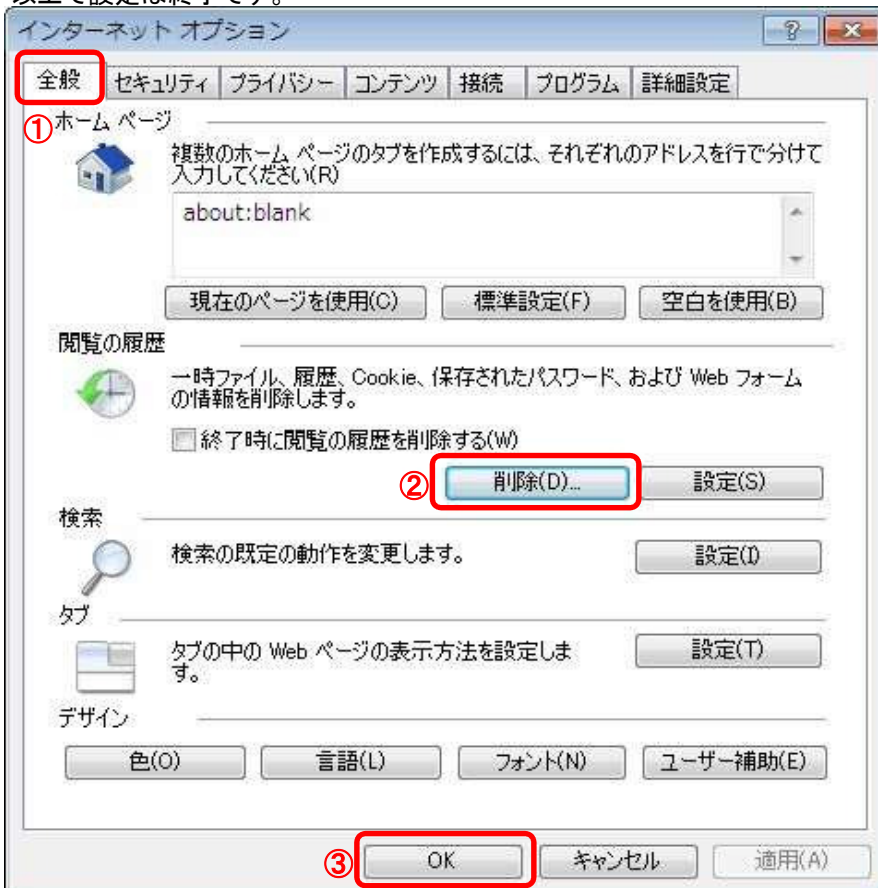
(1)[全般]タブ①をクリックします。

(2)「閲覧の履歴」にある[削除]ボタン②をクリックします。

→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (1)へ

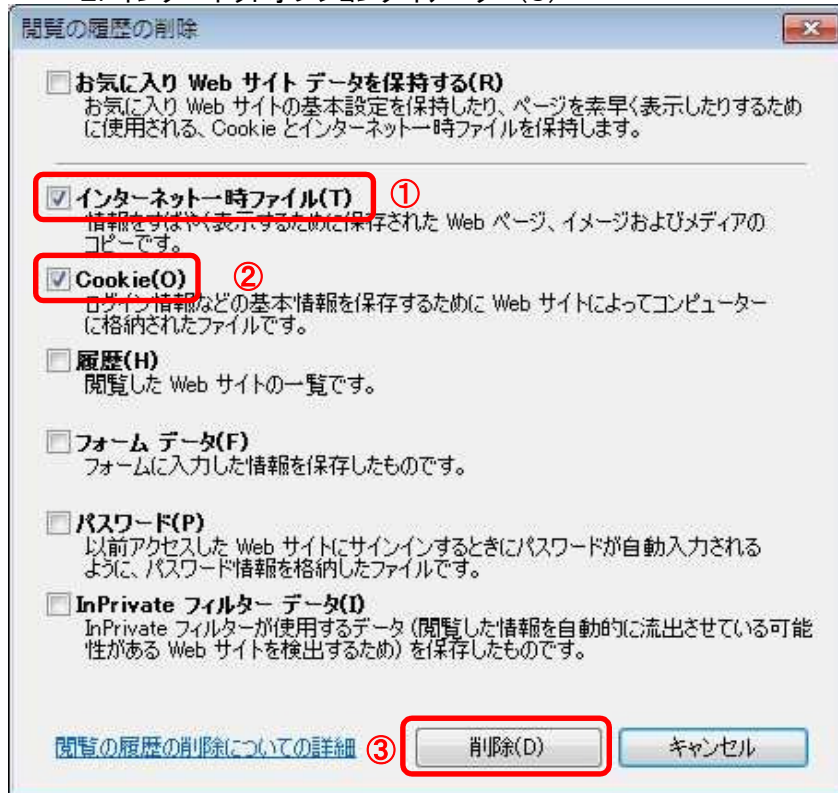
(3)[OK]ボタン③をクリックします。

以上で設定は終了です。



2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログにて以下の操作を行います。
- (1)「インターネット一時ファイル」チェックボックス①をチェックします。
 - (2)「Cookie」チェックボックス②をチェックします。
 - (3)「削除」ボタン③をクリックします。

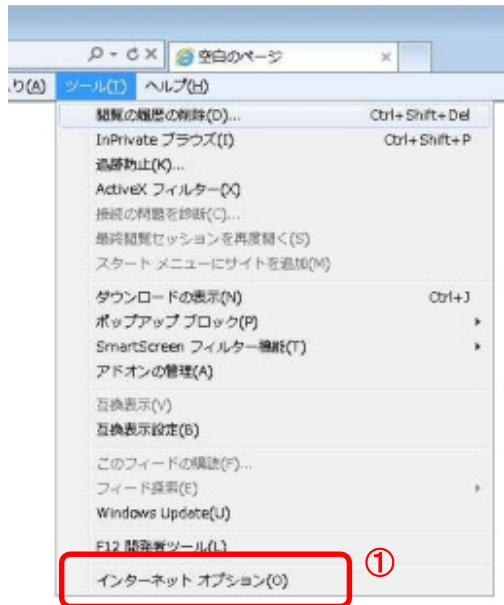
→2. インターネットオプションダイアログ (3)へ



C. Internet Explorer 9 の場合

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]–[インターネットオプション]①をクリックします。



2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

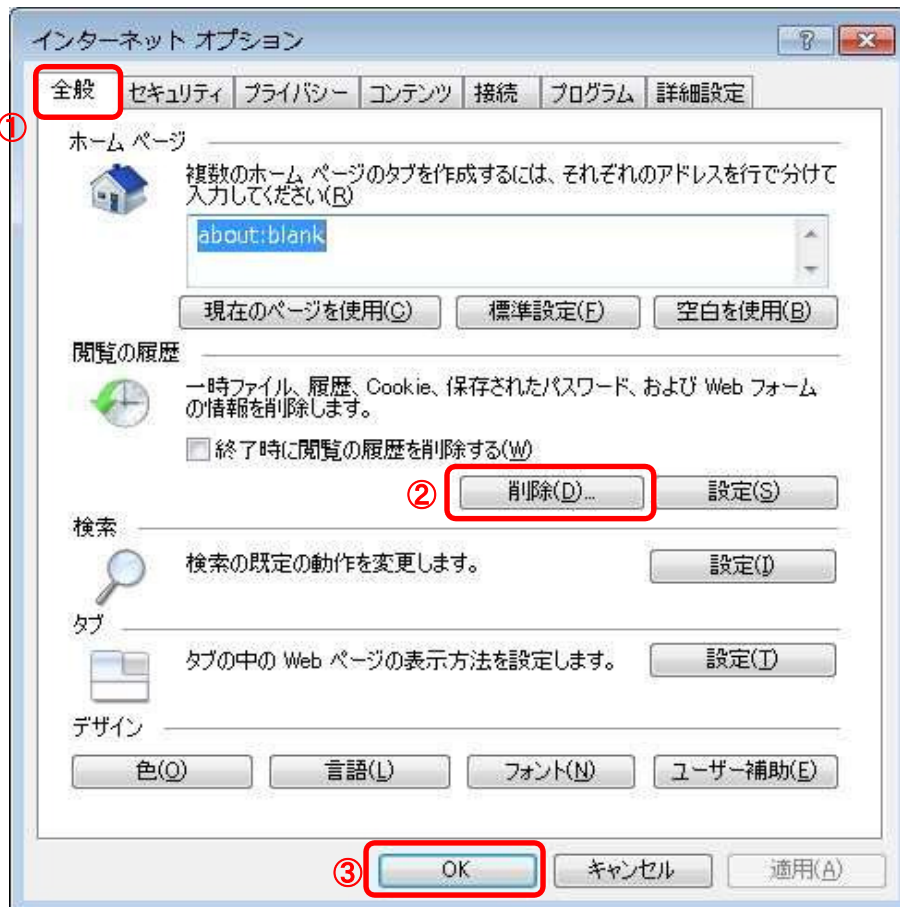
(1)[全般]タブ①をクリックします。

(2)「閲覧の履歴」にある[削除]ボタン②をクリックします。

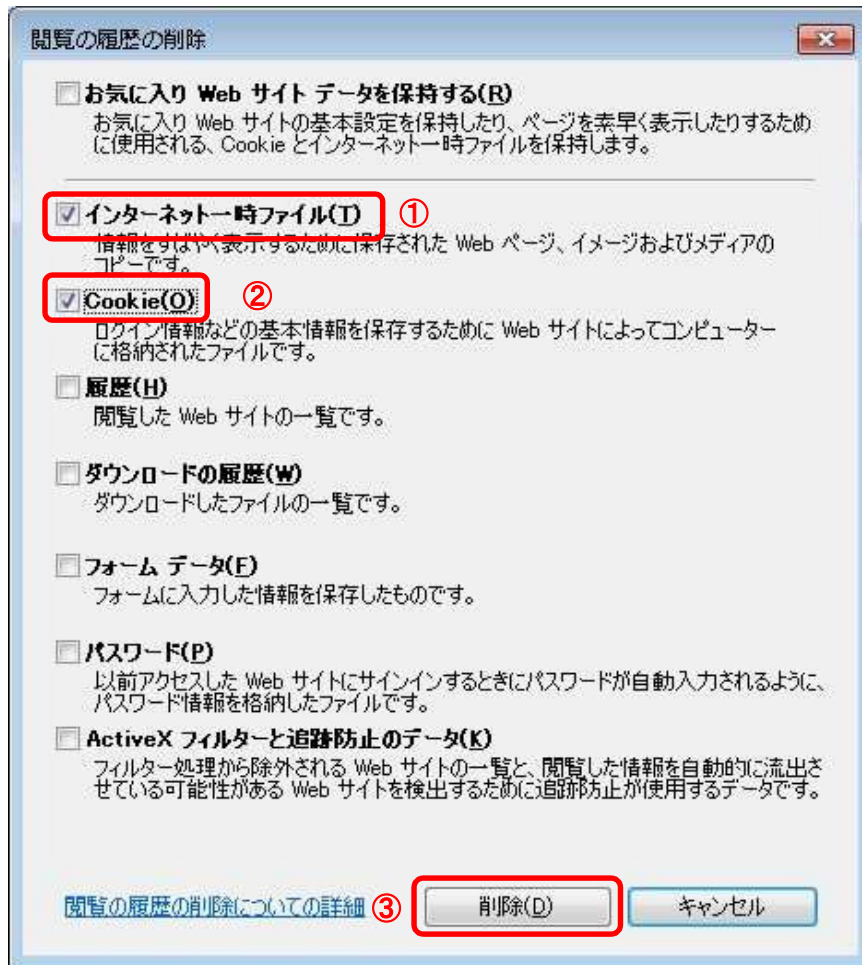
→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (1)へ

(3)[OK]ボタン③をクリックします。

以上で設定は終了です。



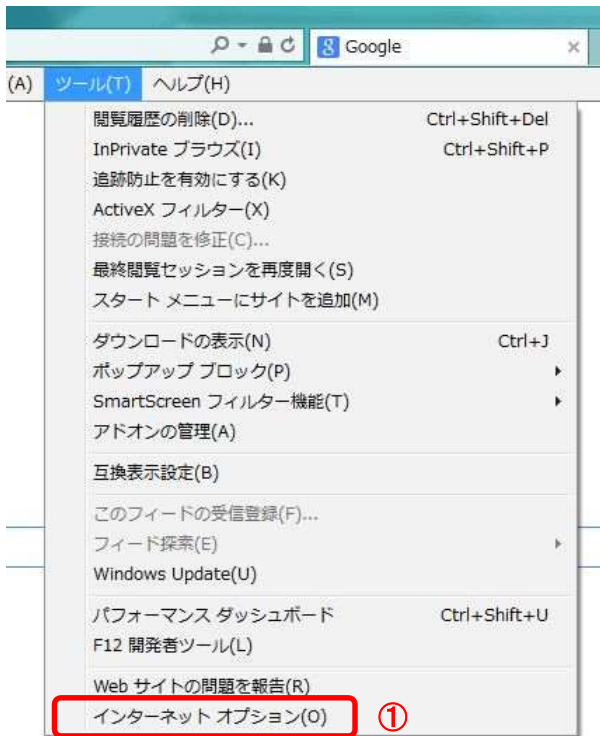
2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログにて以下の操作を行います。
- (1)「インターネット一時ファイル」チェックボックス①をチェックします。
 - (2)「Cookie」チェックボックス②をチェックします。
 - (3)「削除」ボタン③をクリックします。
- 2. インターネットオプションダイアログ (3)へ



D. Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11 の場合

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]–[インターネットオプション]①をクリックします。



2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

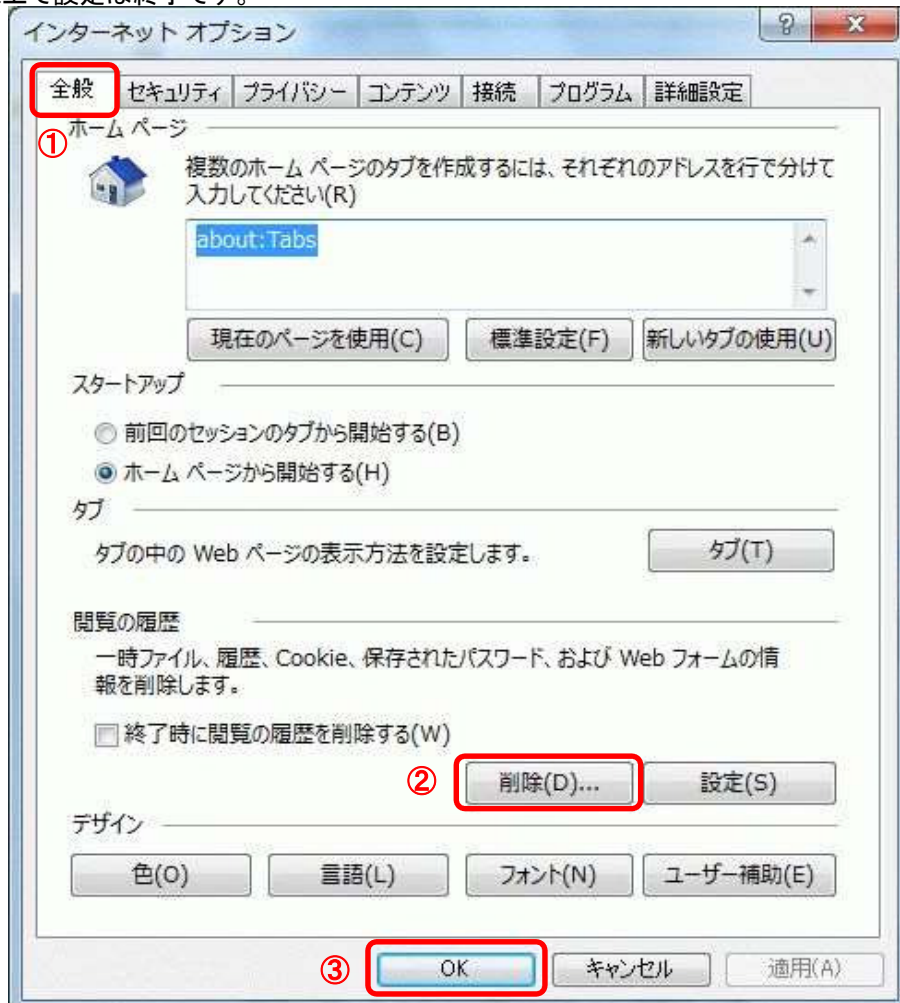
(1)[全般]タブ①をクリックします。

(2)「閲覧の履歴」にある[削除]ボタン②をクリックします。

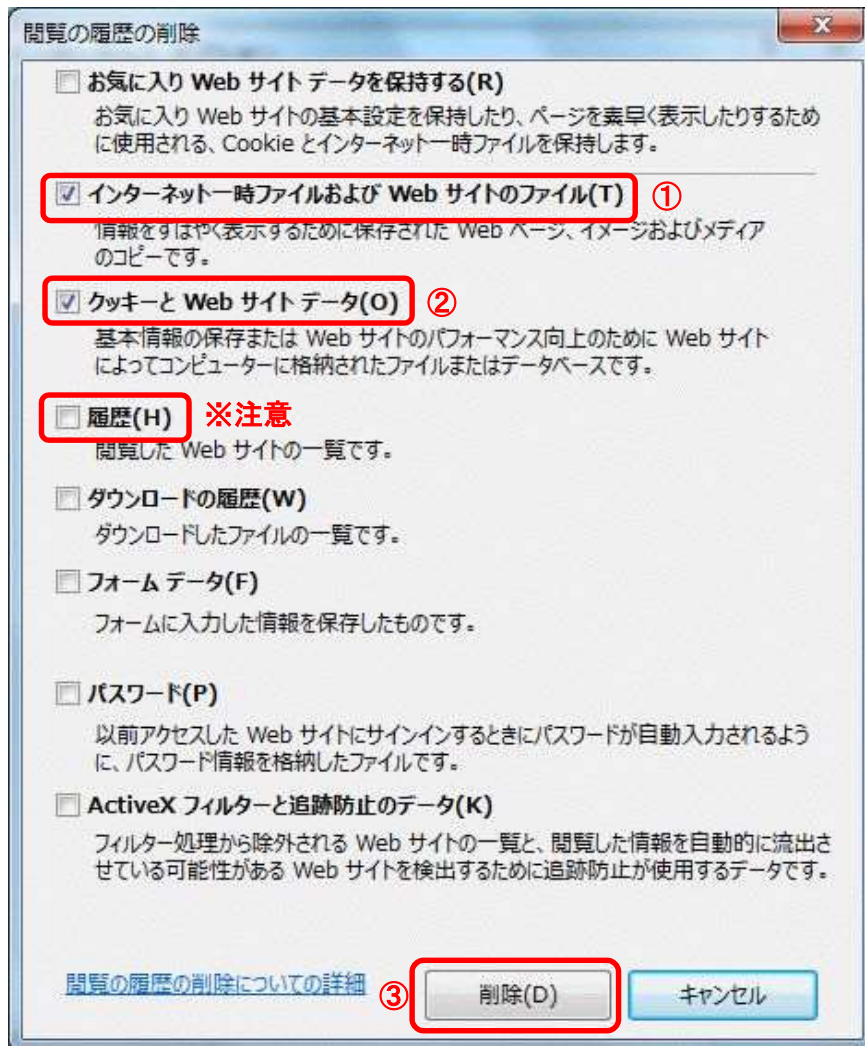
→2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログ (1)へ

(3)[OK]ボタン③をクリックします。

以上で設定は終了です。



2. 1. 閲覧の履歴の削除ダイアログにて以下の操作を行います。
- (1)「インターネット一時ファイルおよびWebサイトのファイル」チェックボックス①をチェックし
 - (2)「クッキーとWebサイトデータ」チェックボックス②をチェックします。
※「履歴」チェックボックスにはチェックをしないでください。
「履歴」を削除した場合、互換表示設定にて設定したアドレスが消えてしまいます。
 - (3)「削除」ボタン③をクリックします。
- 2. インターネットオプションダイアログ (3)へ



④JARキャッシュクリア手順

・JARキャッシュは以下の手順でクリアしてください。

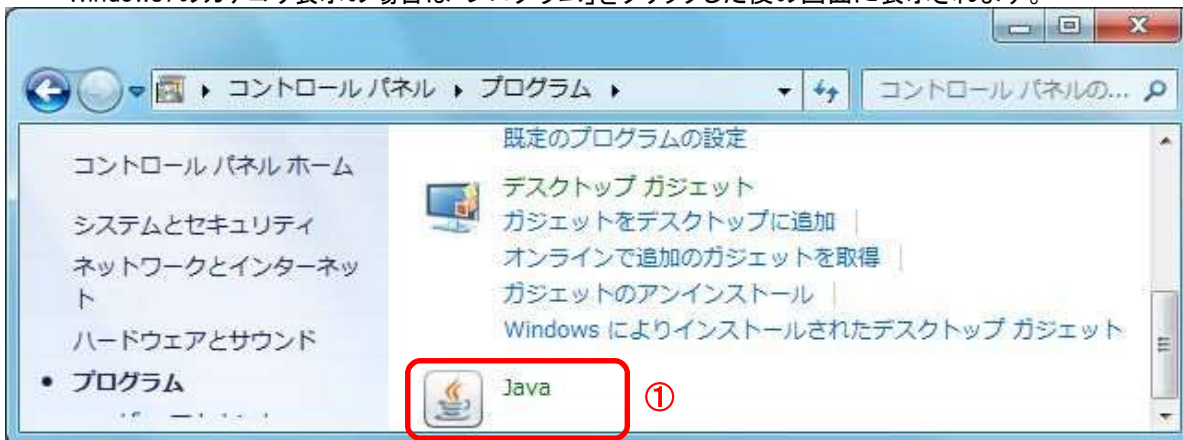
・JRE7またはJRE8の場合

1. 「スタート」ボタンを押してコントロールパネルをクリックします。

2. 「Java」をダブルクリックします。

※カテゴリ表示になっている場合には、

左側の「クラシック表示」(WindowsXPの場合は「クラシック表示に切り替える」)をクリックして表示してください。
Windows7のカテゴリ表示の場合は「プログラム」をクリックした後の画面に表示されます。



3. Java コントロールパネルにて以下の操作を行います。

(1) [一般]タブ①をクリックします。

(2) 「インターネット一時ファイル」にある[設定]ボタン②をクリックします。

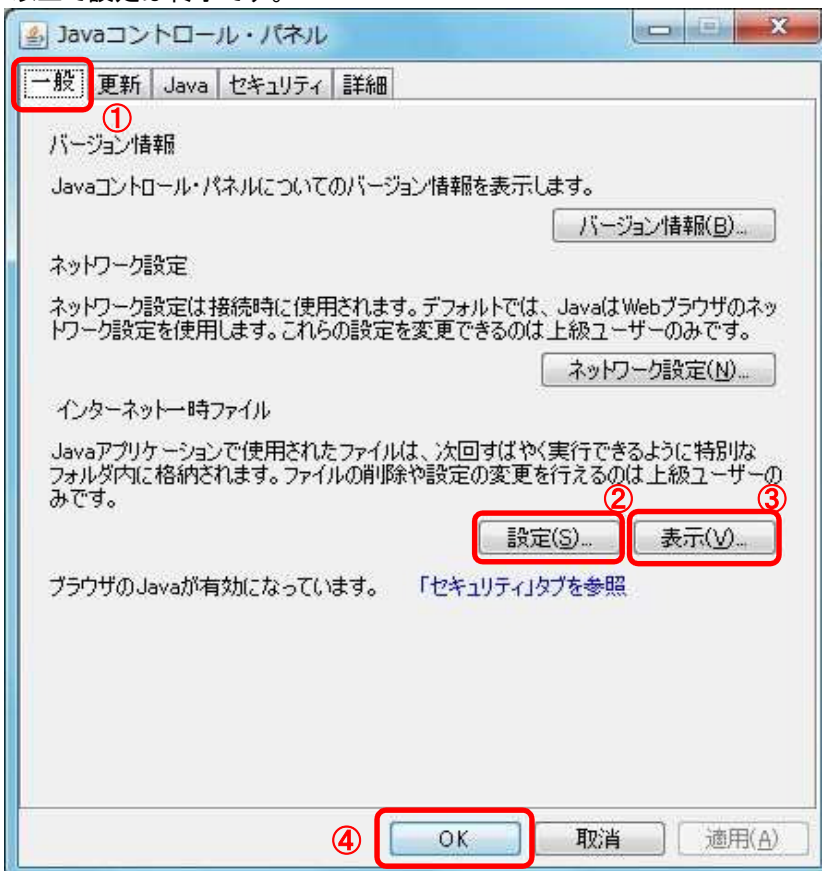
→3. 1. 一時ファイルの設定ダイアログ (1)へ

(3) 「インターネット一時ファイル」にある[表示]ボタン③をクリックします。

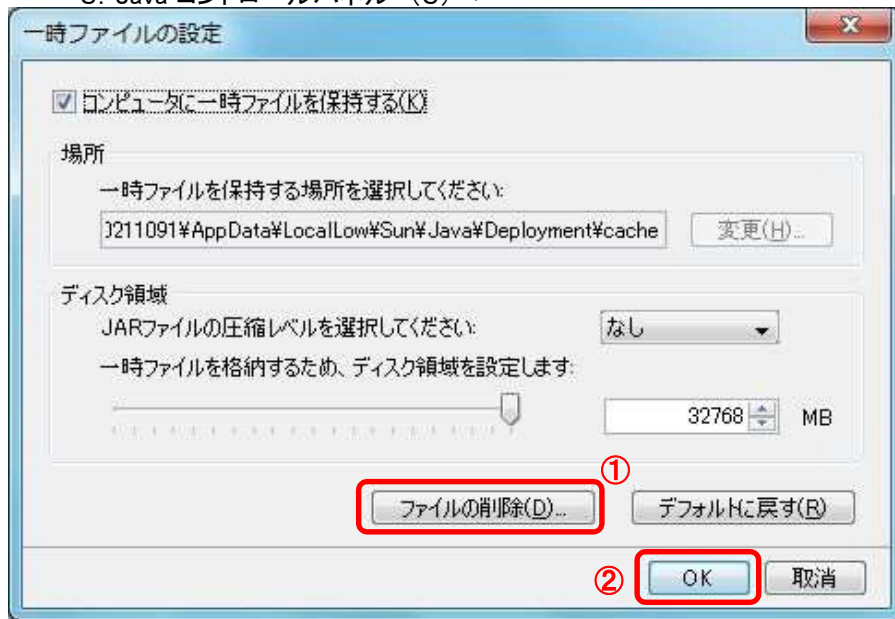
→3. 2. Javaキャッシュビューアダイアログ (1)へ

(4) [OK]ボタン④をクリックします。

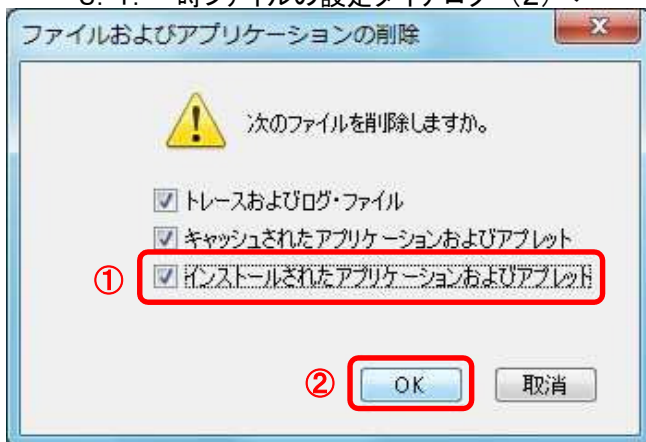
以上で設定は終了です。



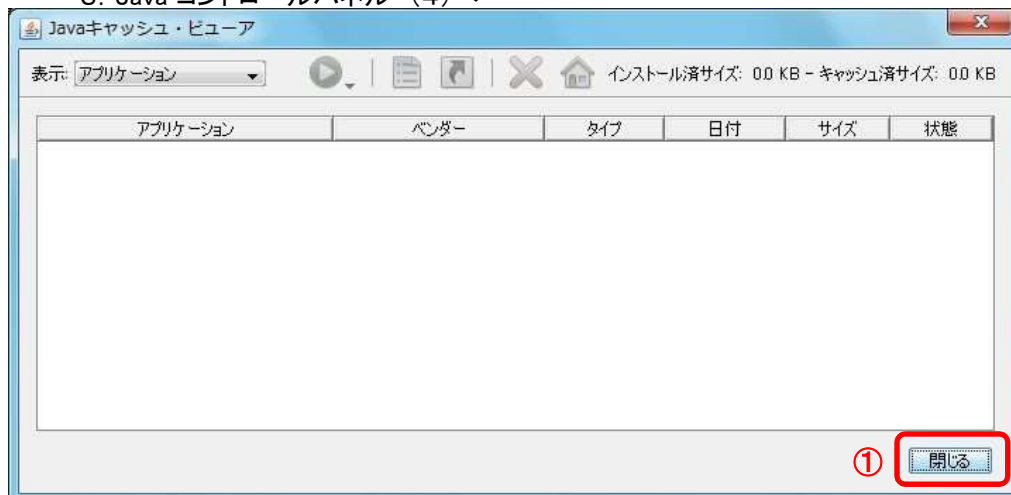
3. 1. 一時ファイルの設定ダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1) [ファイルの削除] ボタン①をクリックします。
→3. 1. 1. 一時ファイルの削除ダイアログ (1)へ
 - (2) [OK] ボタン②をクリックします。
→3. Java コントロールパネル (3)へ



3. 1. 1. 一時ファイルの削除ダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1) 「インストールされたアプリケーションおよびアプレット」チェックボックス①にチェックつけます。
 - (2) [OK] ボタン②をクリックします。
→3. 1. 一時ファイルの設定ダイアログ (2)へ

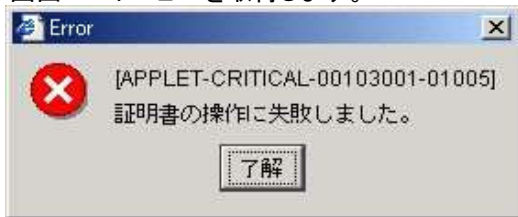


3. 2. Java キャッシュビューアダイアログにて以下の操作を行います。
 - (1) 一覧に何も無いことを確認し、[閉じる] ボタン①をクリックします。
→3. Java コントロールパネル (4)へ



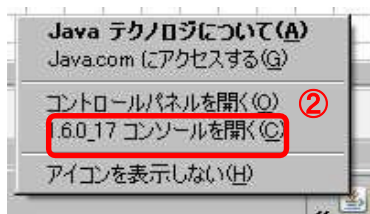
⑤JavaConsoleの取得手順

1. 下記に示すようなエラーが画面上に表示されている状態で、キーボードの「PrintScreen」キーを押下し、画面ハードコピーを取得します。

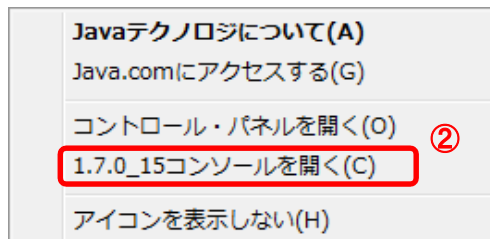


2. WordやExcelを開き画面内で右クリックをし、「貼り付け」をクリックします。(画面のハードコピーが貼付されます。)
3. 電子入札使用中にタスクバーや通知領域に表示されるJavaのアイコン①を右クリックし、[コンソールを表示]②をクリックし

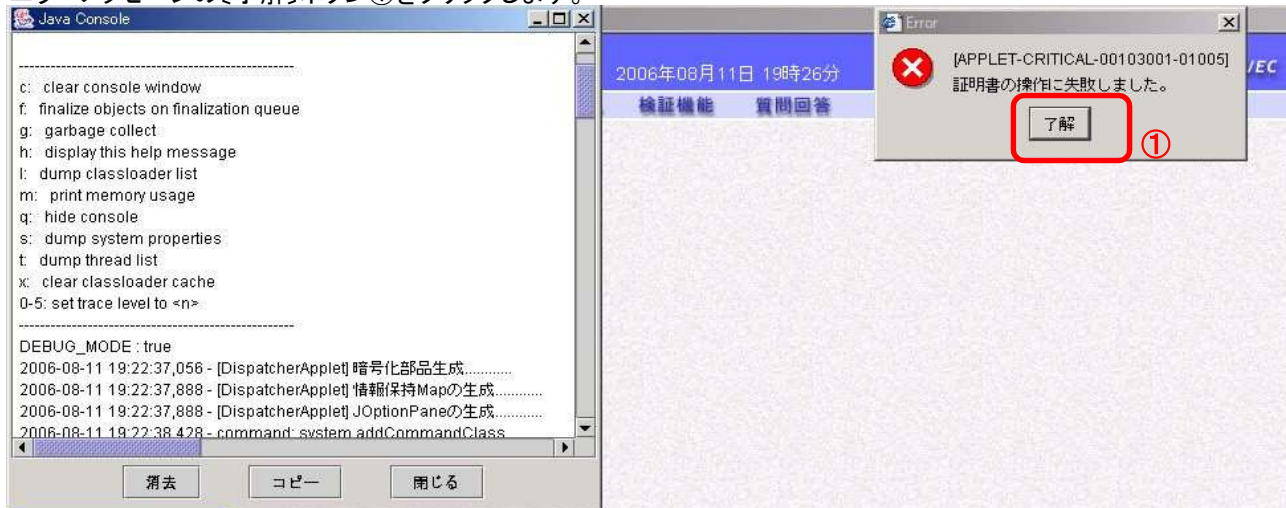
・タスクバーの場合



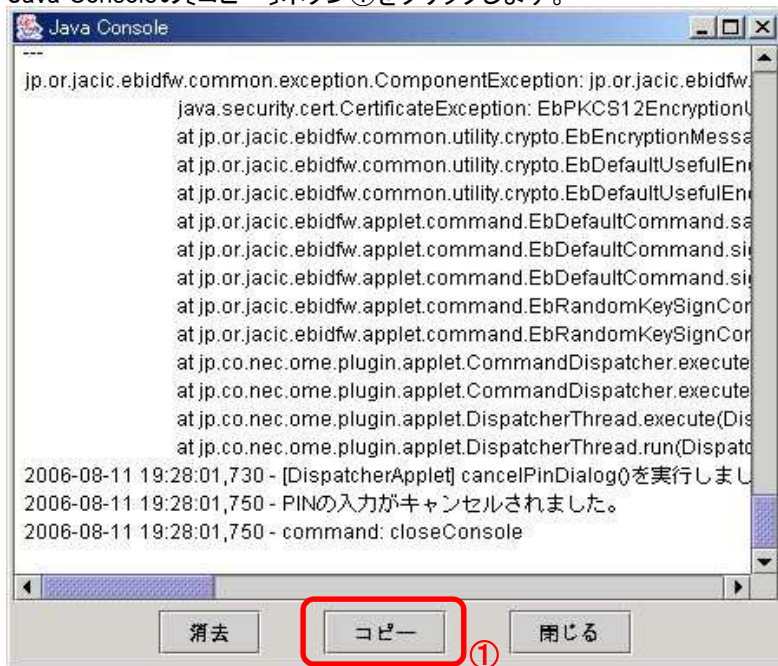
・通知領域の場合



4. エラーメッセージの[了解]ボタン①をクリックします。



5. Java Consoleの[コピー]ボタン①をクリックします。



6. WordやExcelを開き画面内で右クリックをし、「貼り付け」をクリックします。(Java Console内のログが貼付されます。)

⑥アドオンの無効化手順

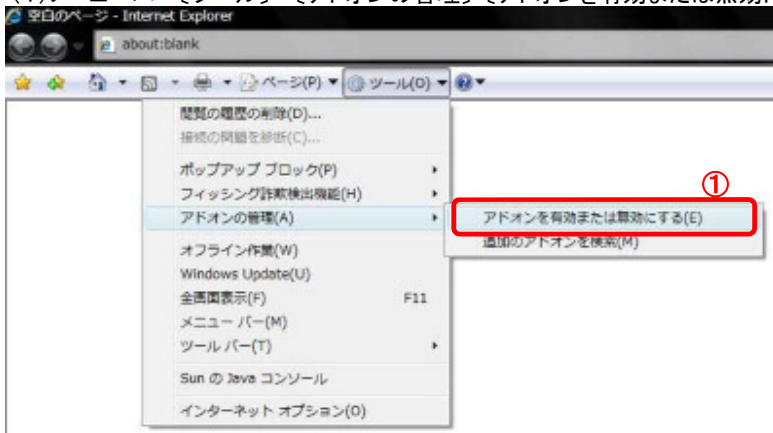
・設定手順はバージョンにより異なります。以下のご利用のバージョンの手順をご参照ください。

- A. Internet Explorer 7 の場合
- B. Internet Explorer 8 の場合
- C. Internet Explorer 9 の場合
- D. Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11 の場合

A. Internet Explorer 7 の場合

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]ー[アドオンの管理]ー[アドオンを有効または無効にする]①をクリックします。



2. アドオンの管理ダイアログにて以下の操作を行います。

(1)[表示]プルダウン①より[Internet Explorer で使用されたアドオン]を選択します。

(2)一覧より問題を引き起こしていると思われるアドオン②を選択し、[設定]を[無効]③に変更します。

→2. 1. アドオンの管理ダイアログ (1)へ

(3)選択したアドオンの[状態]が[無効]④になっていることを確認してください。

(4)ほかにも問題を引き起こしていると思われるアドオンがある場合、(2)～(3)の手順を繰り返します。

ただし、「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」は電子入札で使用しているため、無効にしないでください。

無効にすべきアドオンがわからない場合は「Java Plug-in」から始まるアドオン

および「SunのJavaコンソール」以外をすべて無効にしてください。

(5)上記手続きが完了したら[OK]ボタン⑤をクリックします。



2. 1. アドオンの管理ダイアログにて以下の操作を行います。

(1)[OK]ボタン①をクリックします。

→2. アドオンの管理ダイアログ (3)へ

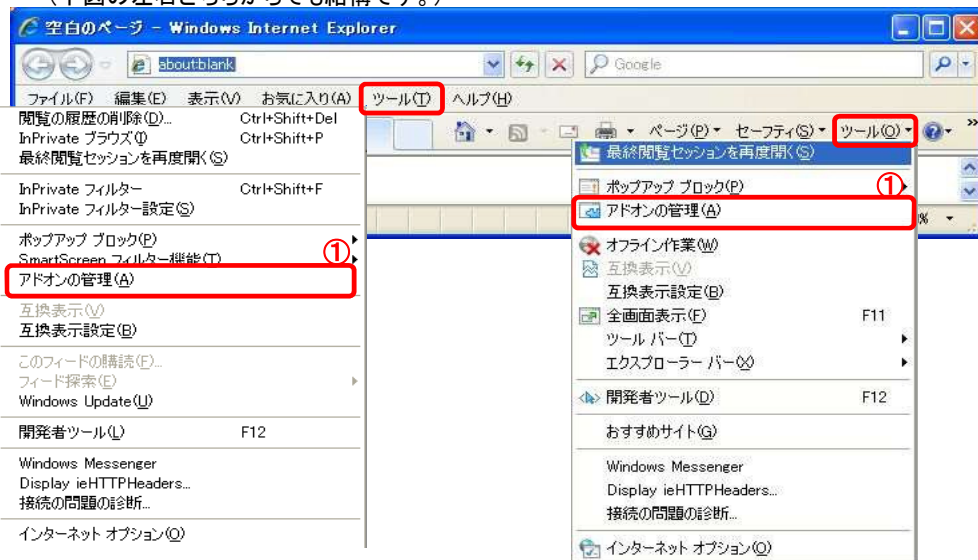


3. Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。

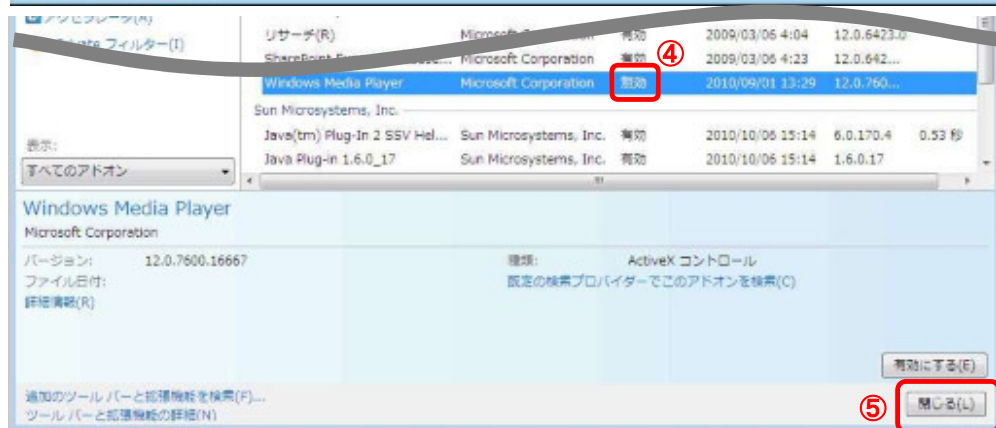
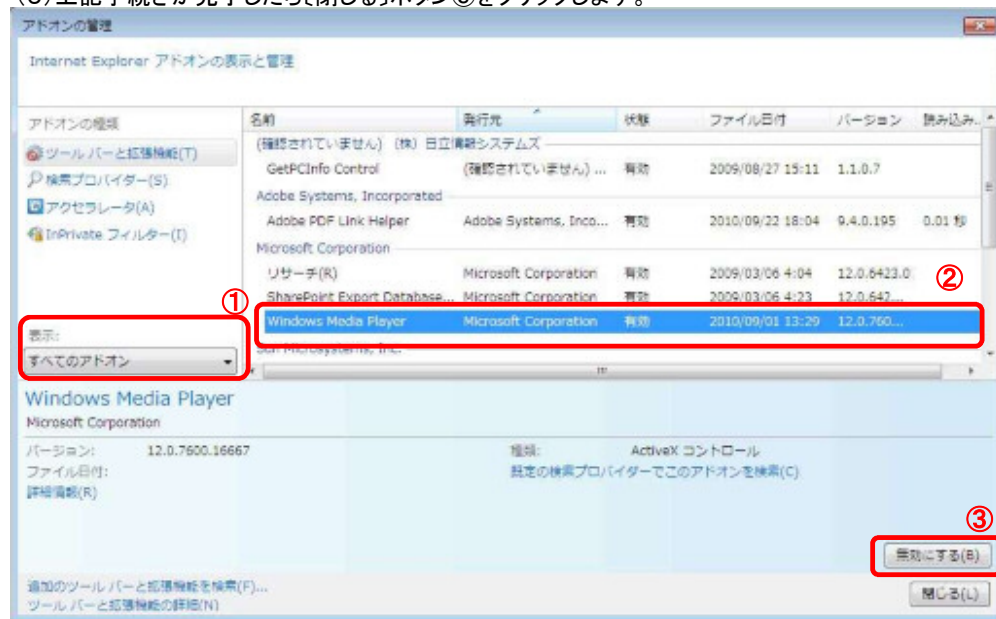
以上で設定は終了です。

B. Internet Explorer 8 の場合

- Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。
 (1)メニューバー[ツール]ー[アドオンの管理]①をクリックします。
 (下図の左右どちらからでも結構です。)



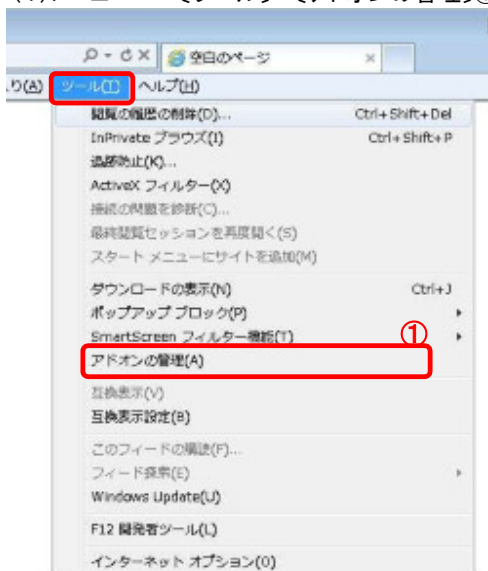
- アドオンの管理ダイアログにて以下の操作を行います。
 (1)[表示]プルダウン①より[すべてのアドオン]を選択します。
 (2)一覧より問題を引き起こしていると思われるアドオン②を選択し、[無効にする]ボタン③をクリックします。
 (3)選択したアドオンの[状態]が[無効]④になっていることを確認してください。
 (4)ほかにも問題を引き起こしていると思われるアドオンがある場合、(2)～(3)の手順を繰り返します。
 ただし、「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」は電子入札で使用しているため、無効にしないでください。
 無効にすべきアドオンがわからない場合は「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」以外をすべて無効にしてください。
 (5)上記手続きが完了したら[閉じる]ボタン⑤をクリックします。



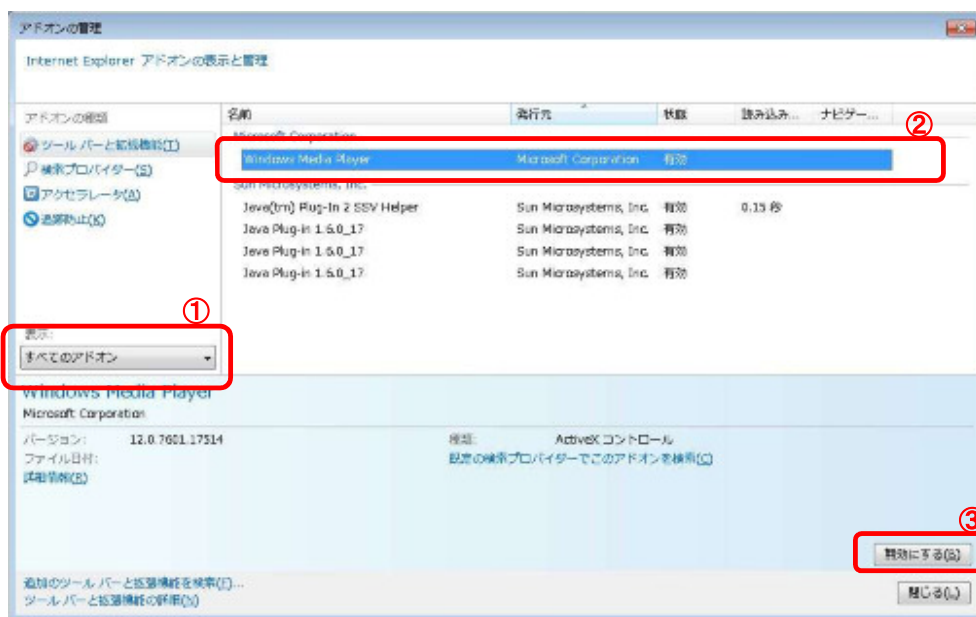
- Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。
 以上で設定は終了です。

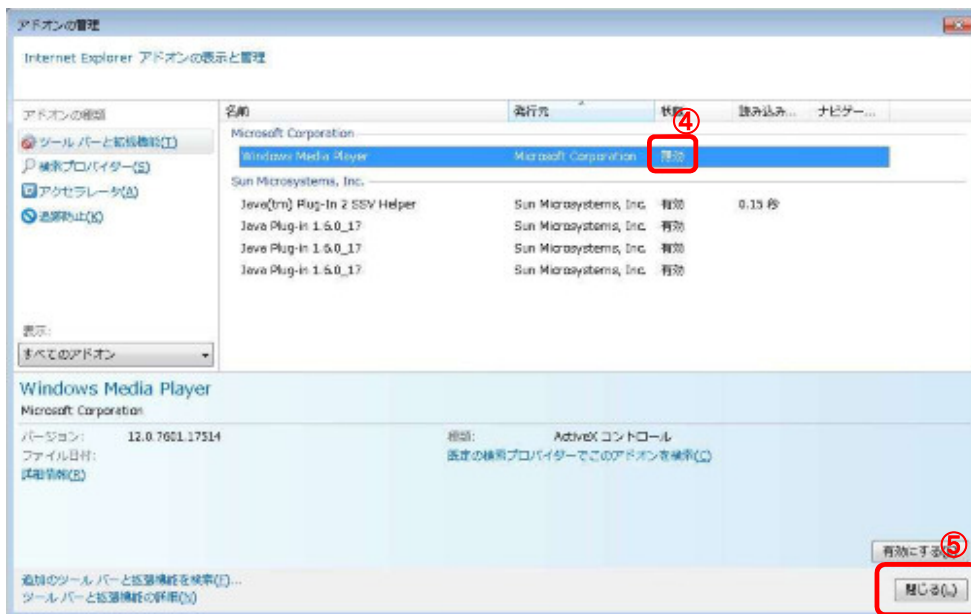
C. Internet Explorer 9 の場合

- Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。
 (1)メニューバー[ツール]–[アドオンの管理]①をクリックします。



- アドオンの管理ダイアログにて以下の操作を行います。
 (1)[表示]プルダウン①より[すべてのアドオン]を選択します。
 (2)一覽より問題を引き起こしていると思われるアドオン②を選択し、[無効にする]ボタン③をクリックします。
 (3)選択したアドオンの[状態]が[無効]④になっていることを確認してください。
 (4)ほかにも問題を引き起こしていると思われるアドオンがある場合、(2)～(3)の手順を繰り返します。
 ただし、「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」は電子入札で使用しているため、無効にしないでください。
 無効にすべきアドオンがわからない場合は「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」以外をすべて無効にしてください。
 (5)上記手続きが完了したら[閉じる]ボタン⑤をクリックします。





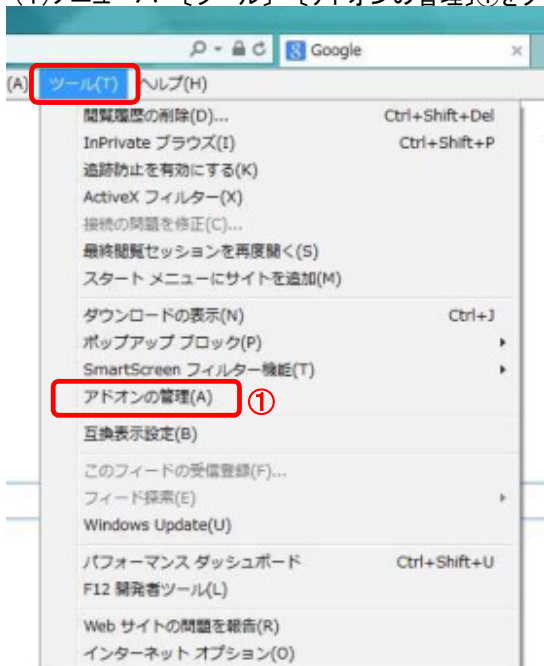
3. Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。

以上で設定は終了です。

D. Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11 の場合

- Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

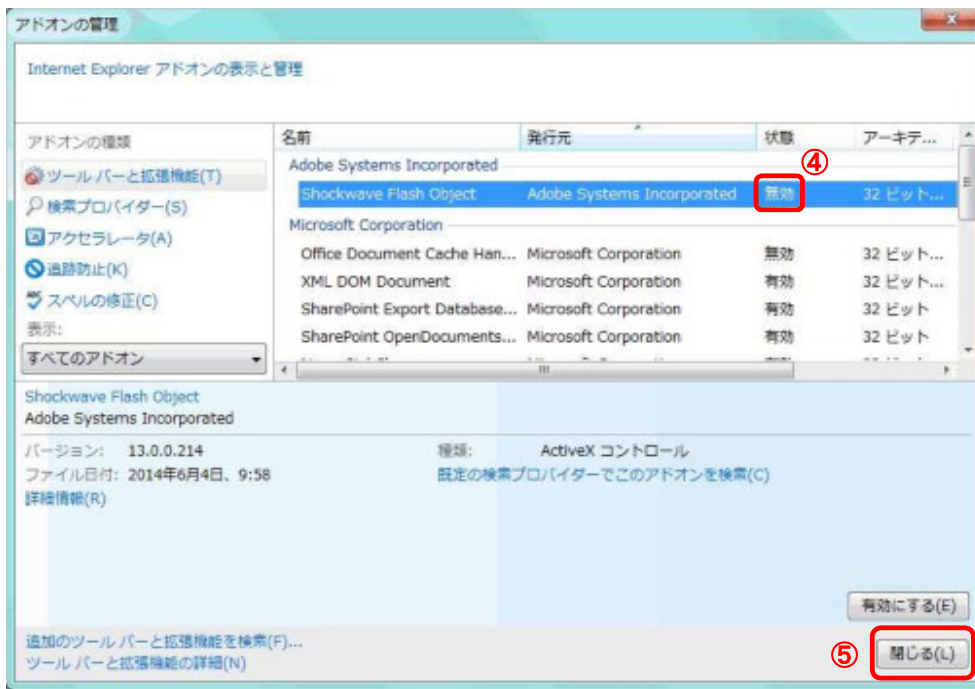
(1)メニューバー[ツール]ー[アドオンの管理]①をクリックします。



- アドオンの管理ダイアログにて以下の操作を行います。

- [表示]プルダウン①より[すべてのアドオン]を選択します。
- 一覧より問題を引き起こしていると思われるアドオン②を選択し、[無効にする]ボタン③をクリックします。
- 選択したアドオンの[状態]が[無効]④になっていることを確認してください。
- ほかにも問題を引き起こしていると思われるアドオンがある場合、(2)～(3)の手順を繰り返します。
ただし、「Java Plug-in」から始まるアドオンおよび「SunのJavaコンソール」は電子入札で使用しているため、無効にしないでください。
無効にすべきアドオンがわからない場合は「Java Plug-in」から始まるアドオン
および「SunのJavaコンソール」以外をすべて無効にしてください。
- 上記手続きが完了したら[閉じる]ボタン⑤をクリックします。





3. InternetExplorerを終了します。他に開いているInternetExplorerがあれば全て終了してください。

以上で設定は終了です。

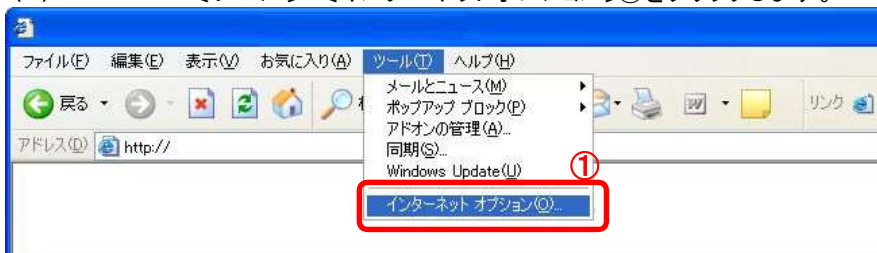
⑦ サードパーティー製ブラウザ拡張機能の無効化

※この設定を行うと、Internet Explorerにインストールされたツールバー等が全て無効になります。
電子入札システム以外のサイトをご利用の際に不具合が発生する場合は、
本設定手順にて2. インターネットオプションダイアログ (2)の操作を以下に置き換えて行ってください。

「(2)[サードパーティー製のブラウザ拡張を有効にする(再起動が必要)]②をチェックします。」

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

(1)メニューバー[ツール]—[インターネットオプション]①をクリックします。

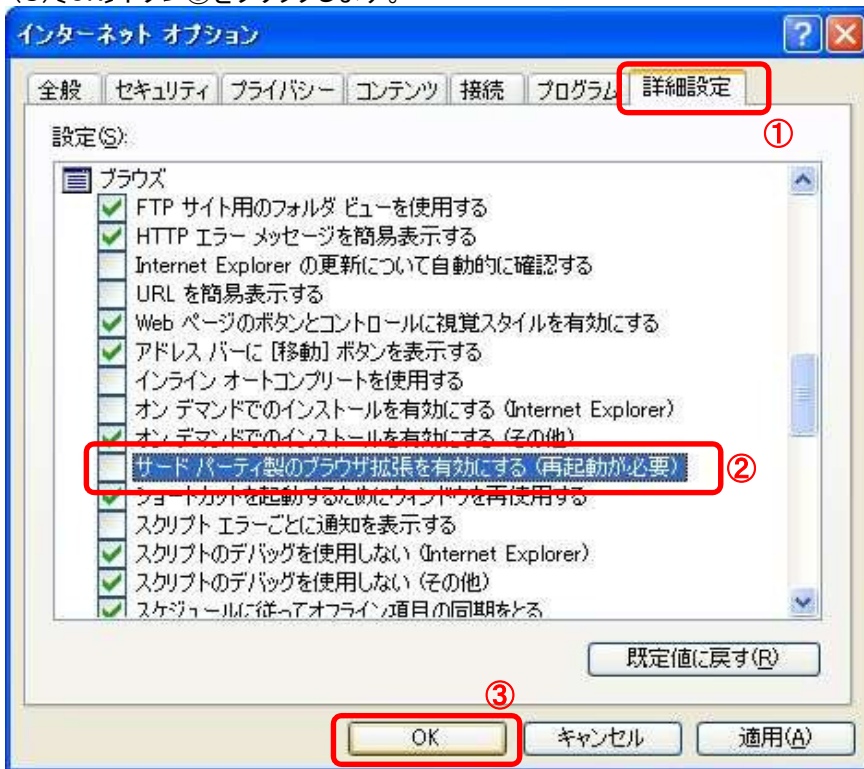


2. インターネットオプションダイアログにて以下の操作を行います。

(1)[詳細設定]タブ①をクリックします。

(2)[サードパーティー製のブラウザ拡張を有効にする(再起動が必要)]②のチェックを外します。

(3)[OK]ボタン③をクリックします。



3. Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。

以上で設定は終了です。

⑧互換表示設定

- ・設定方法は2種類あります。ご都合に合わせて以下のどちらかの設定を行ってください。
ただし、Internet Explorer11の場合は、「B.特定のサイトに対してのみ互換表示を行う。」の設定を行ってください

A.全てのWebサイトに対して互換表示を行う。

- 全てのWebサイトが互換表示 (Internet Explorer 7と同じ表示)となります。
以降、他団体の電子入札システムを利用する際も設定する必要はありません。

B.特定のサイトに対してのみ互換表示を行う。

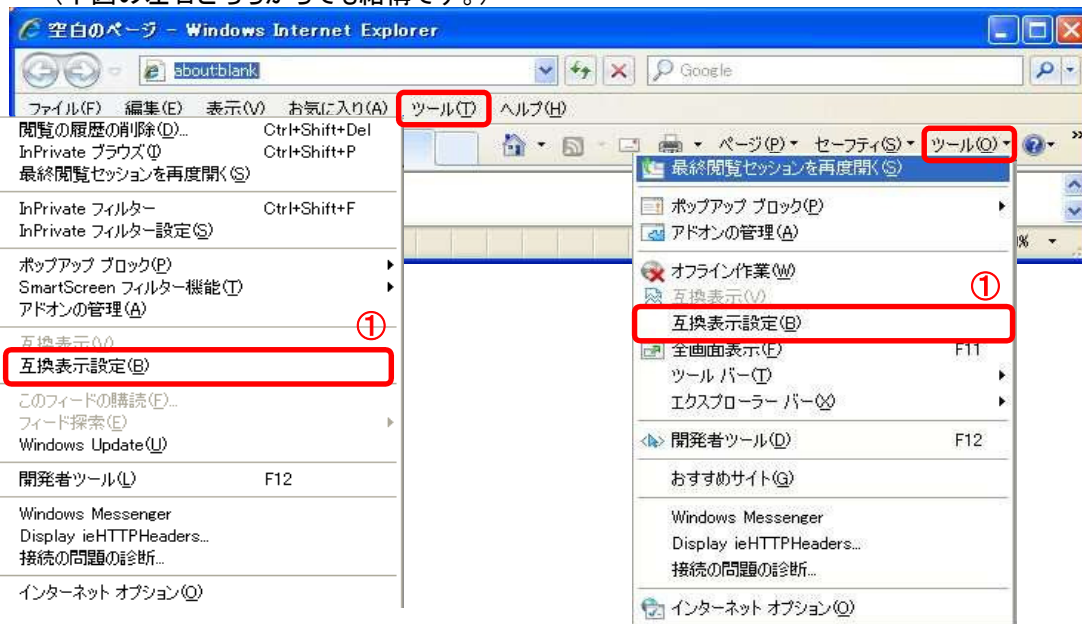
- 本電子入札システムサイトのみ互換表示 (Internet Explorer 7と同じ表示)となります。
登録したサイト以外についてはInternet Explorer 8/9/10/11準拠の表示となります。
他団体の電子入札システムを利用する際は利用団体毎に設定が必要です。

A.全てのWebサイトに対して互換表示を行う。

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

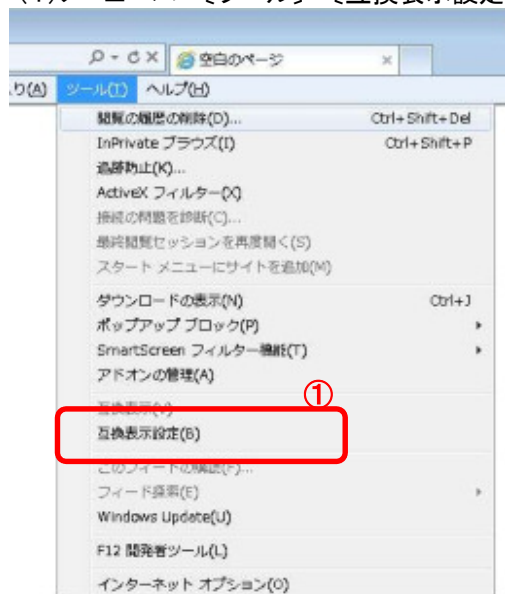
・Internet Explorer8 の場合

- (1)メニューバー[ツール]ー[互換表示設定]①をクリックします。
(下図の左右どちらからでも結構です。)



・Internet Explorer9/10 の場合

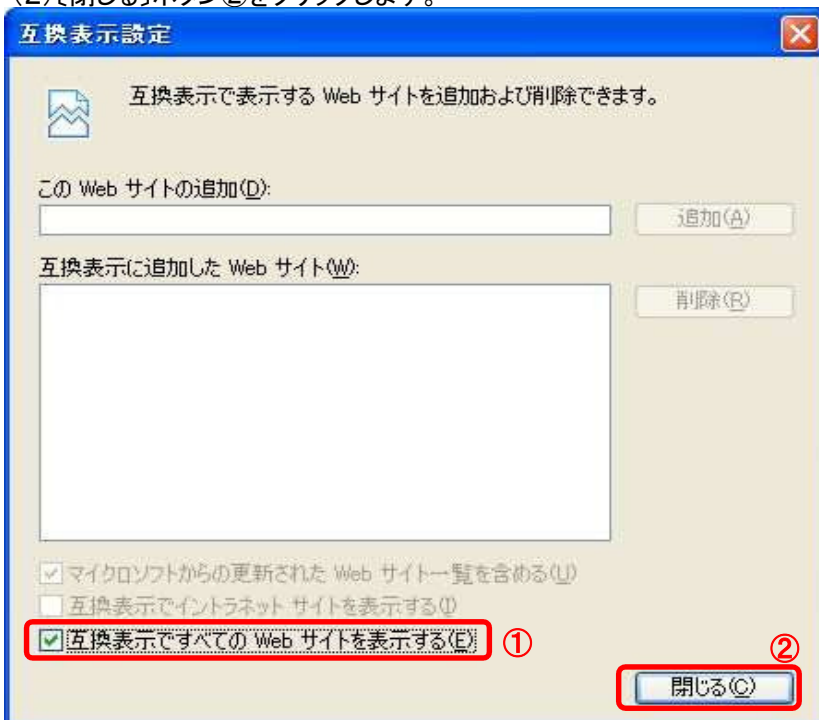
- (1)メニューバー[ツール]ー[互換表示設定]①をクリックします。



2. 互換表示設定ダイアログにて以下の操作を行います。

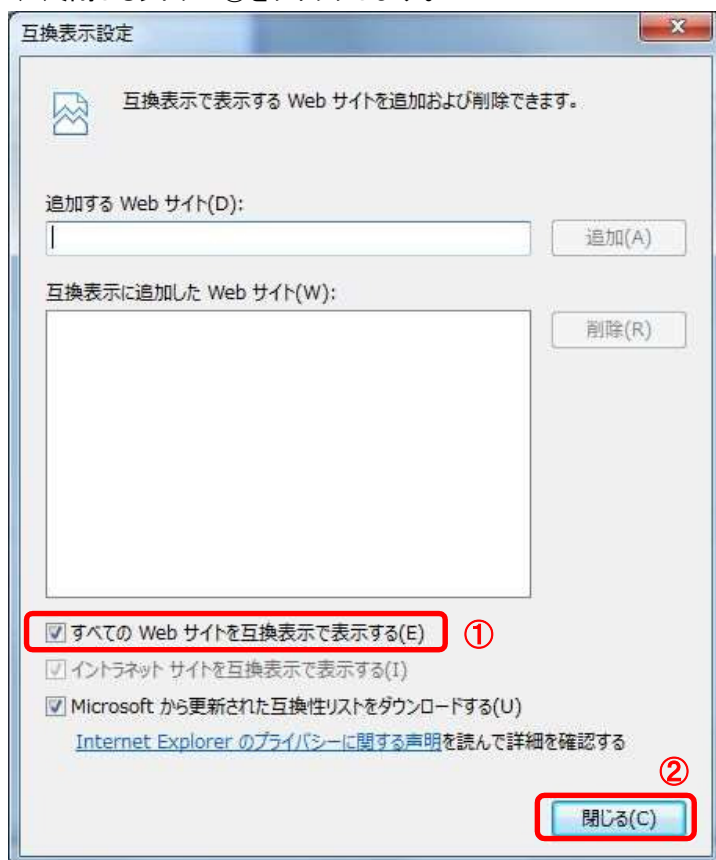
•Internet Explorer8/9 の場合

- (1)[互換表示で全てのWebサイトを表示する]①をチェックします。
- (2)[閉じる]ボタン②をクリックします。



•Internet Explorer10 の場合

- (1)[互換表示で全てのWebサイトを表示する]①をチェックします。
- (2)[閉じる]ボタン②をクリックします。



3. InternetExplorerを終了します。他に開いているInternetExplorerがあれば全て終了してください。

以上で設定は終了です。

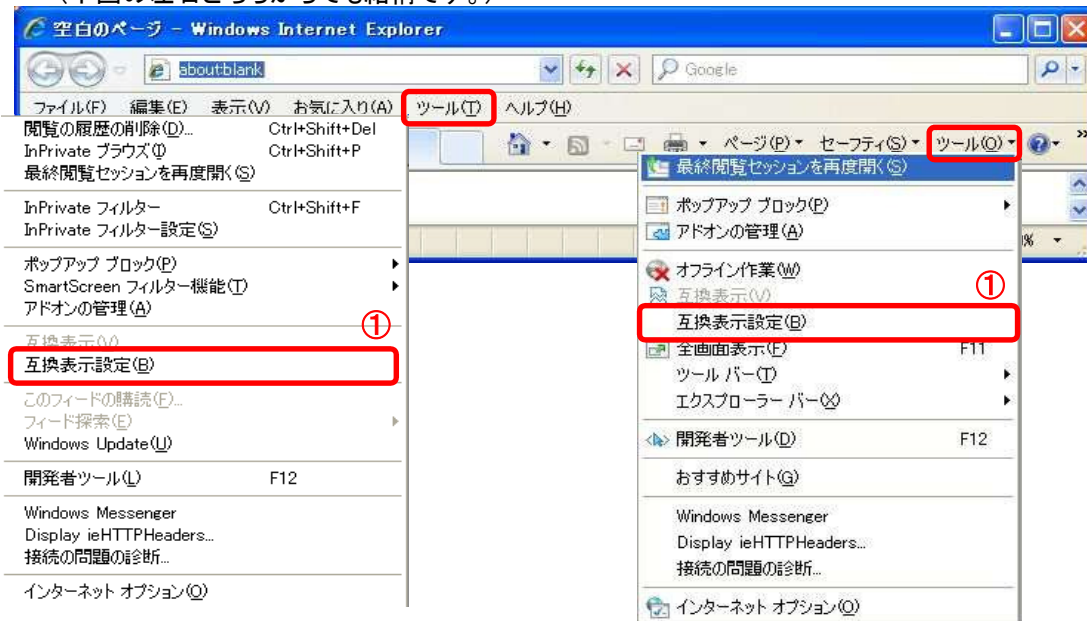
B.特定のサイトに対してのみ互換表示を行う。

1. Internet Explorerを開き、以下の操作を行います。

・Internet Explorer8 の場合

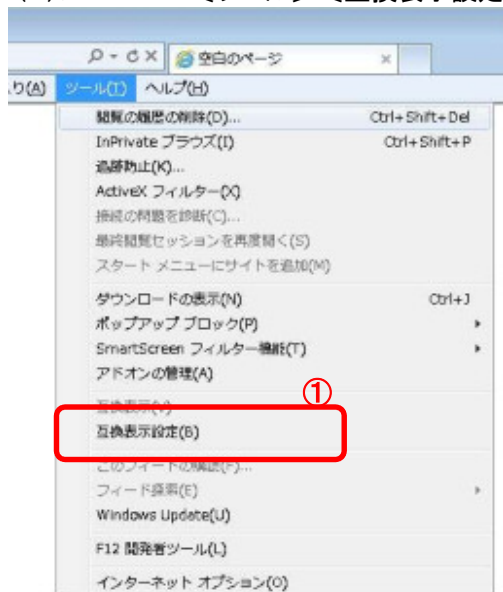
(1)メニューバー[ツール]―[互換表示設定]①をクリックします。

(下図の左右どちらからでも結構です。)



・Internet Explorer9/10/11 の場合

(1)メニューバー[ツール]―[互換表示設定]①をクリックします。



2. 互換表示設定ダイアログにて以下の操作を行います。

・Internet Explorer8/9 の場合

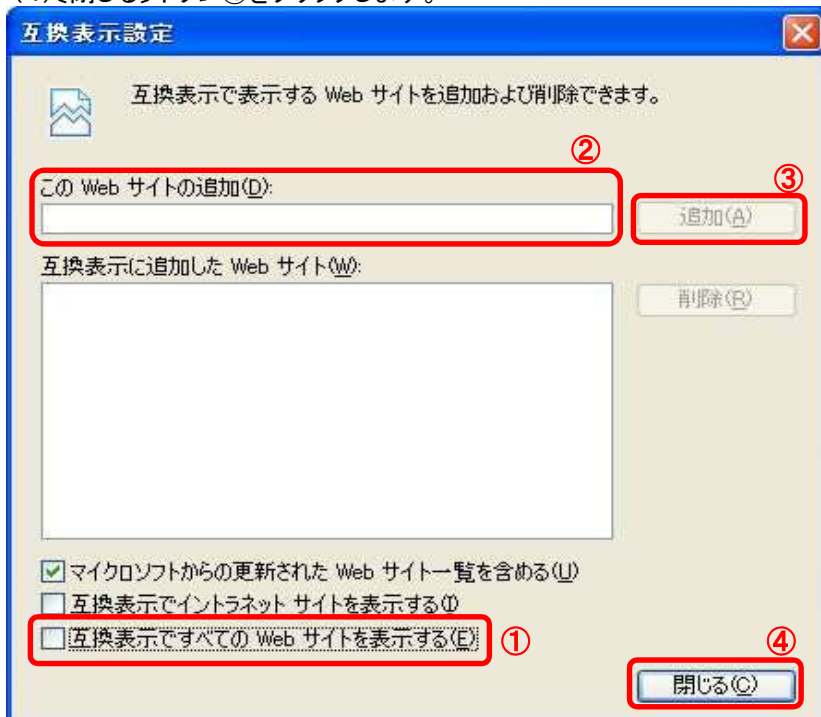
(1) [互換表示で全てのWebサイトを表示する]①のチェックをはずします。

(2) [このWebサイトの追加]②の欄に以下を入力します。

fwd.ne.jp

(3) [追加]ボタン③をクリックし、[互換表示に追加したWebサイト]にURLが追加されたことを確認します。

(4) [閉じる]ボタン④をクリックします。



・Internet Explorer10の場合

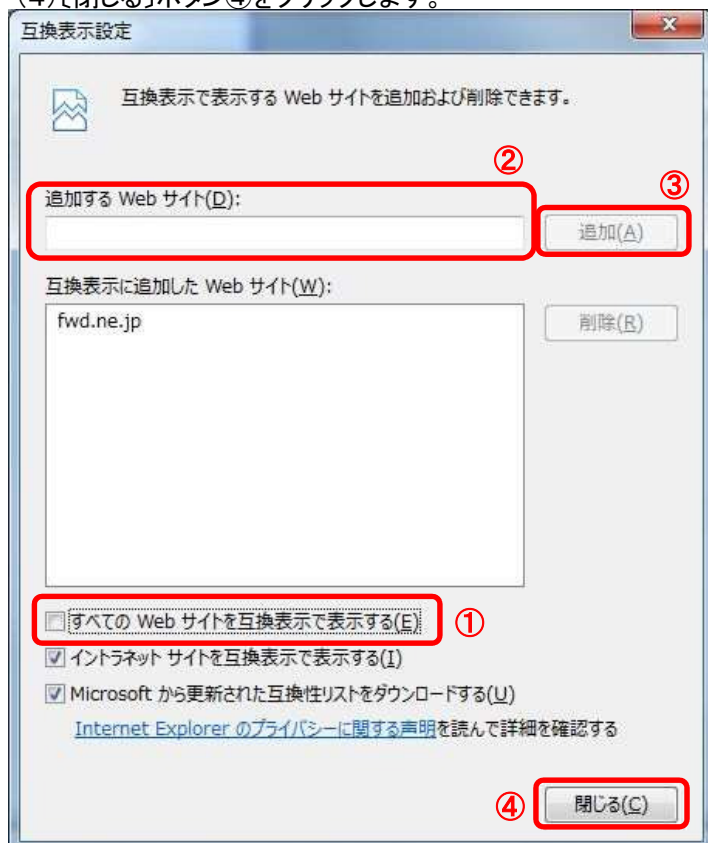
(1) [互換表示で全てのWebサイトを表示する]①のチェックをはずします。

(2) [このWebサイトの追加]②の欄に以下を入力します。

fwd.ne.jp

(3) [追加]ボタン③をクリックし、[互換表示に追加したWebサイト]にURLが追加されたことを確認します。

(4) [閉じる]ボタン④をクリックします。



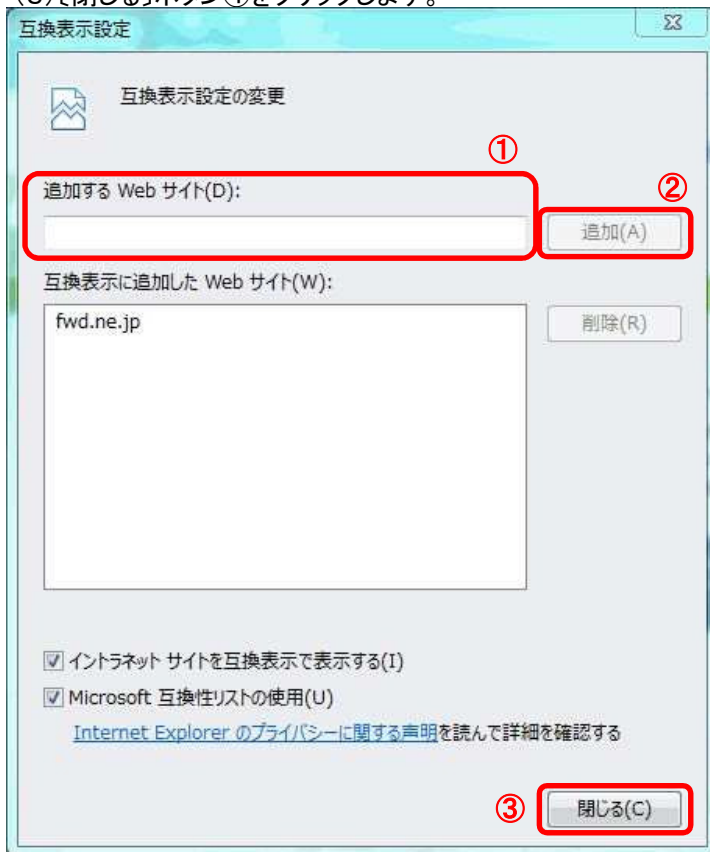
・Internet Explorer11の場合

(1)[このWebサイトの追加]②の欄に以下を入力します。

fwd.ne.jp

(2)[追加]ボタン③をクリックし、[互換表示に追加したWebサイト]にURLが追加されたことを確認します。

(3)[閉じる]ボタン④をクリックします。



3. Internet Explorerを終了します。他に開いているInternet Explorerがあれば全て終了してください。

以上で設定は終了です。

⑨Javaアイコンの表示方法

・JRE7またはJRE8の場合

1. 「スタート」ボタンを押してコントロールパネルをクリックします。
2. 「Java」をダブルクリックします。

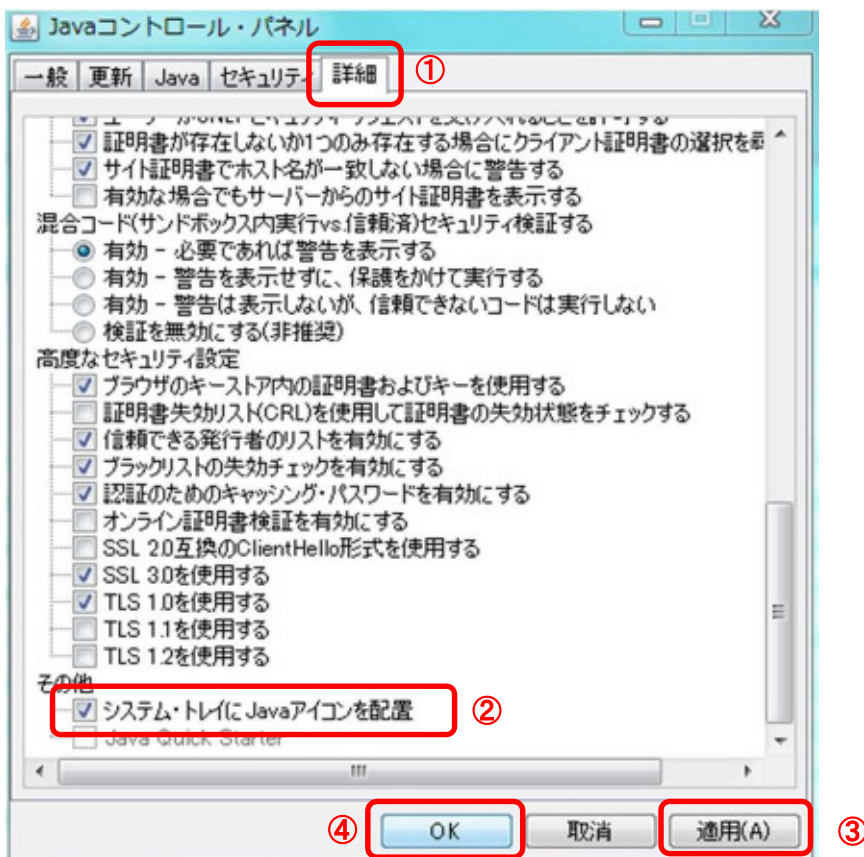
※カテゴリ表示になっている場合には、

左側の「クラシック表示」(WindowsXPの場合は「クラシック表示に切り替える」)をクリックして表示してください。
Windows7のカテゴリ表示の場合は「プログラム」をクリックした後の画面に表示されます。



3. Java コントロールパネルにて以下の操作を行います。

- (1) [詳細]タブ①をクリックします。
 - (2) [その他]オプションの[システムトレイにJavaアイコンを配置]チェック・ボックス②をチェックします。
 - (3) [適用]ボタン③をクリックします。
 - (4) [OK]ボタン④をクリックします。
- 以上で設定は終了です。



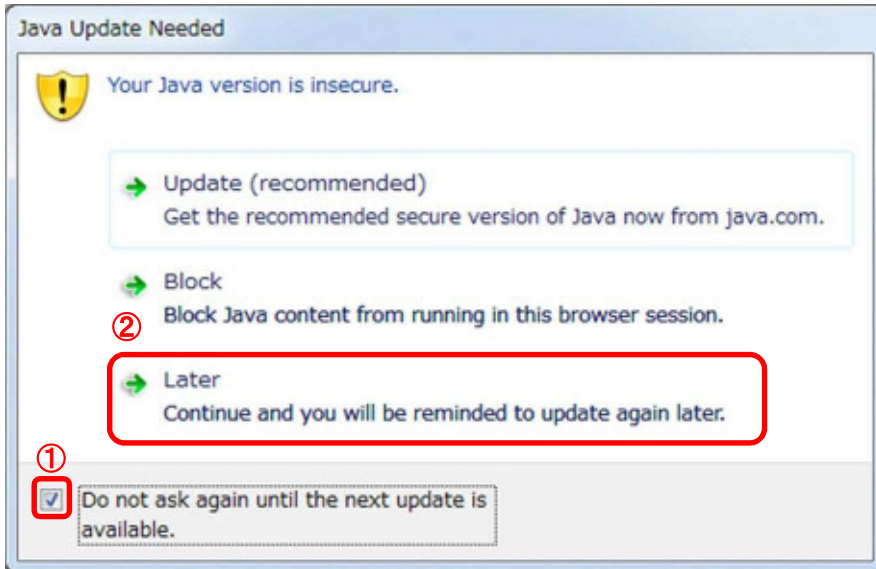
⑩Java警告メッセージの回避方法

《Java アップデートに関するメッセージ》

電子入札システムにログインする際に、Javaのアップデートが必要とメッセージ表示される場合がありますが、Javaをアップデートしないよう注意してください。
以下の手順にて、メッセージを回避してください。

英字表記の場合

1. 「Do not ask again until the next update is available.」のチェックボックス①にチェックします。
2. 「Later」をクリックします。



日本語表記の場合

1. 「次の更新が利用可能になるまでメッセージを表示しません。」のチェックボックス①にチェックします。
2. 「後で」をクリックします。

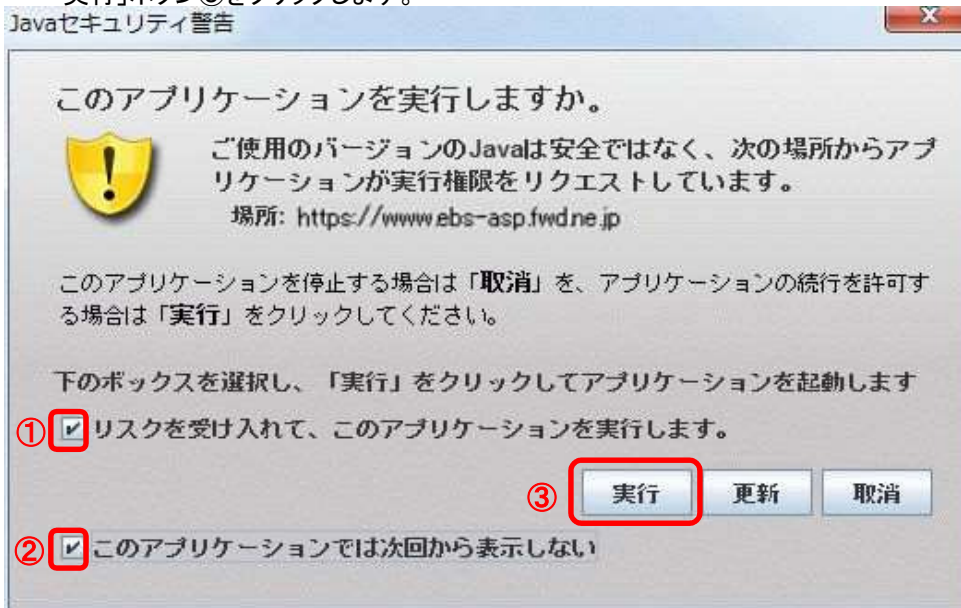


《Java セキュリティ警告に関するメッセージ》

電子入札システムにログインする際に、Javaセキュリティ警告が表示される場合があります。以下の手順にて、メッセージを回避してください。

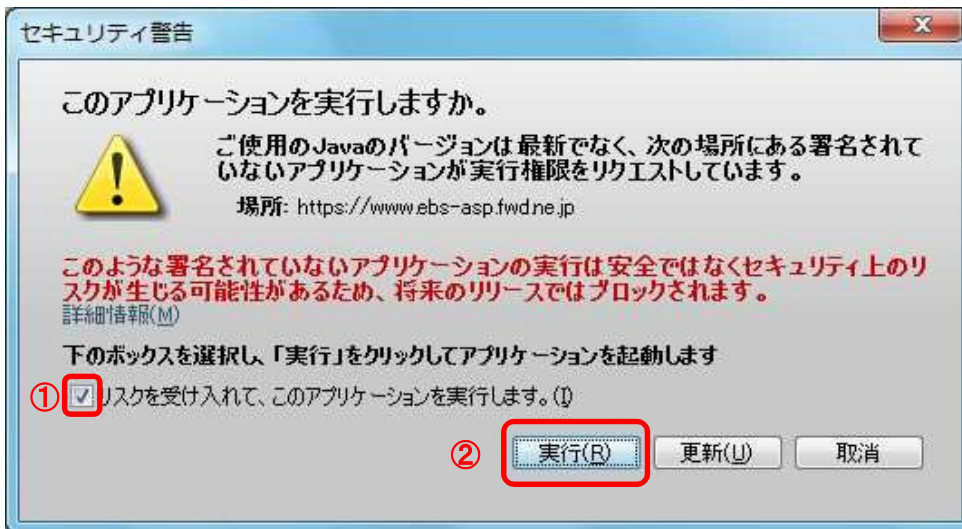
JRE7Update15の場合

1. 「リスクを受け入れて、このアプリケーションを実行します。」チェックボックス①にチェックします。
2. 「このアプリケーションでは次回から表示しない」チェックボックス②にチェックし、「実行」ボタン③をクリックします。



JRE7Update45の場合

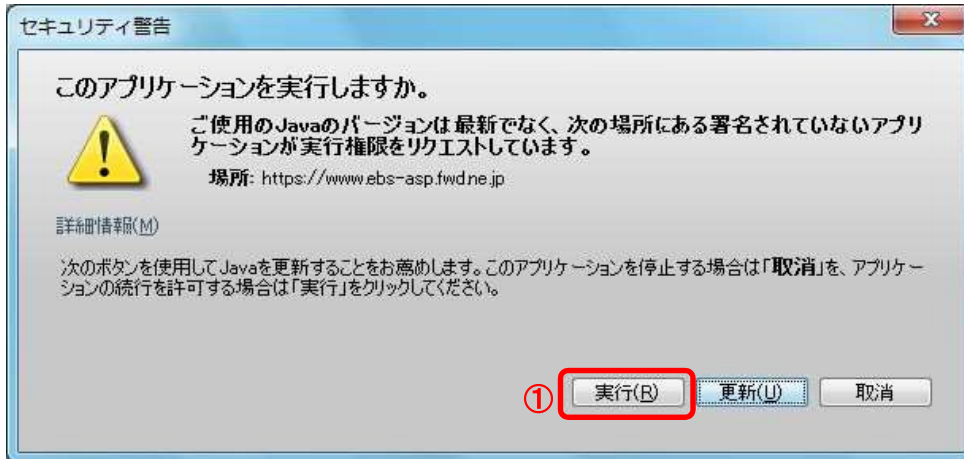
1. 「リスクを受け入れて、このアプリケーションを実行します。」チェックボックス①にチェックします。
2. 「実行」ボタン②をクリックします。



JRE8Update25の場合

JRE8より、セキュリティ警告が2回表示されます。

1. 「実行」ボタン①をクリックします。



2. 「実行」ボタン①をクリックします。



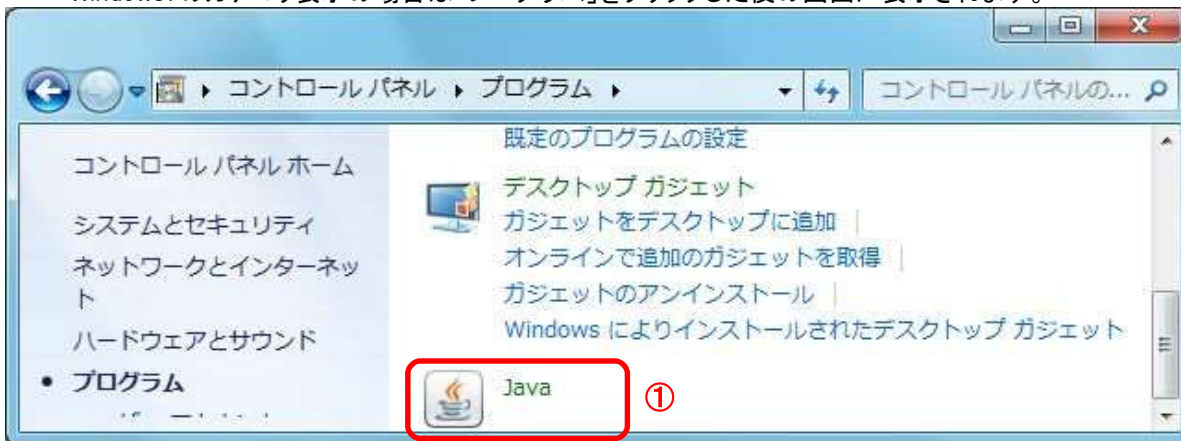
⑪Javaセキュリティ設定

Javaのセキュリティ強化に伴い、以下のようなメッセージが表示される場合があります。
Javaコントロールパネルより、セキュリティの設定をご確認ください。



・JRE7 (Update45) の場合

1. 「スタート」ボタンを押してコントロールパネルをクリックします。
2. 「Java」をダブルクリックします。
※カテゴリ表示になっている場合には、
左側の「クラシック表示」(WindowsXPの場合は「クラシック表示に切り替える」)をクリックして表示してください。
Windows7のカテゴリ表示の場合は「プログラム」をクリックした後の画面に表示されます。



3. Java コントロールパネルにて以下の操作を行います。
Javaコントロールパネルが表示されます。「セキュリティ」タブ①をクリックします。
セキュリティレベルを「中」②に変更して、「摘要」ボタン③をクリックします。



・JRE8の場合

JRE8を利用するには、コアシステムを利用するすべてのPCにおいて、Javaコントロールパネル「例外サイト・リスト」に、ご利用頂く電子入札システムのURL (javaポリシー記載と同じ) 及び電子入札専用クライアントソフトウェア (各認証局が提供) のプログラムファイル名を設定する必要があります。
設定するURLや詳細の手順に関しては各認証局にご確認ください。

参考として、以下に直接追加する手順を記載します。

1. 「スタート」ボタンを押してコントロールパネルをクリックします。
2. 「Java」をダブルクリックします。

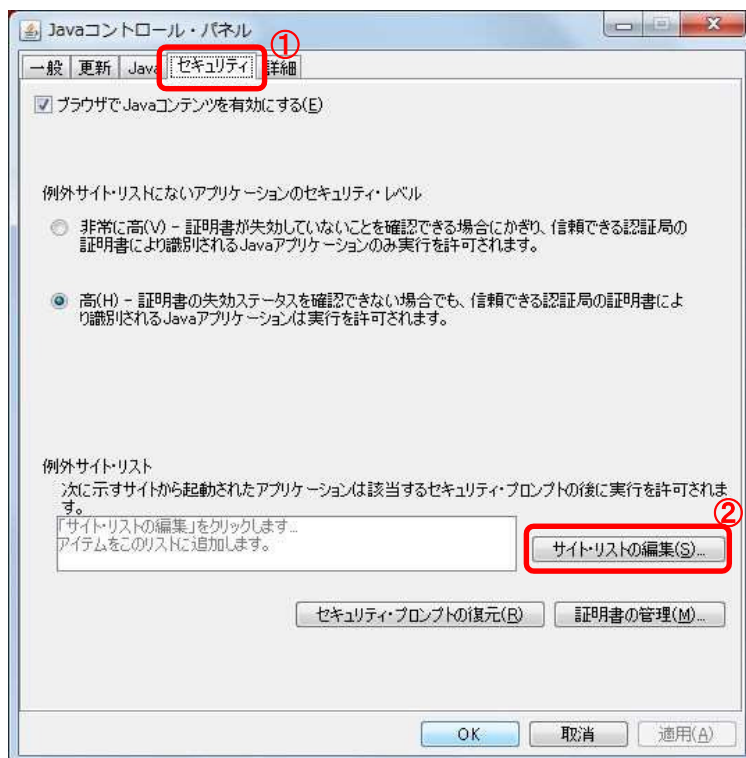
※カテゴリ表示になっている場合には、

左側の「クラシック表示」(WindowsXPの場合は「クラシック表示に切り替える」)をクリックして表示してください。
Windows7のカテゴリ表示の場合は「プログラム」をクリックした後の画面に表示されます。

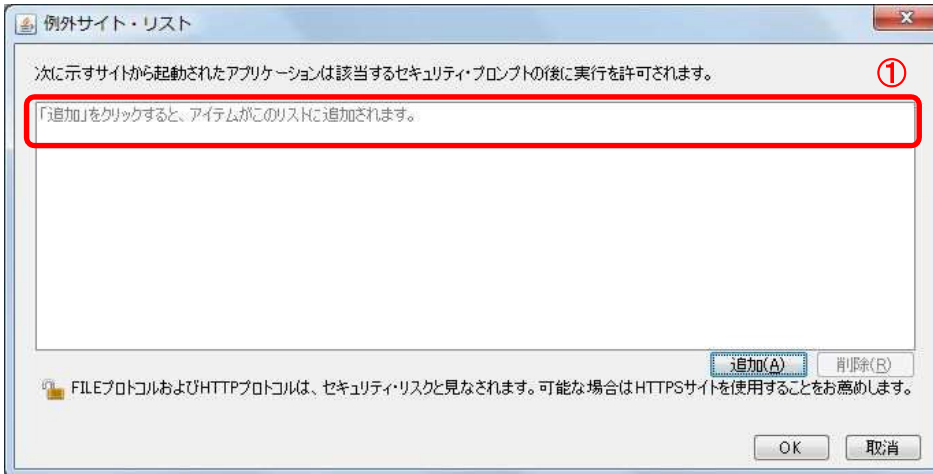


3. Java コントロールパネルにて以下の操作を行います。

(1) 「セキュリティ」タブ①をクリックして、「サイト・リストの編集」ボタン②をクリックします。



- (2)「場所」欄①にご利用頂く電子入札システムのURL (javaポリシー記載と同じ) 及び電子入札専用クライアントソフトウェア (各認証局が提供) のプログラムファイルが置かれているフォルダ名を登録します。
(注意) JRE のインストール先を変更した場合は、以下フォルダ名が変わりますのでご注意ください。



電子入札専用クライアントソフトウェアは以下フォルダ名を「置換条件」(*)に従い変換したものを登録します。

・32bit PCの場合

フォルダ名 : C:\Program Files\Java\jre1.8.0_25\lib\applet\
 置換後のフォルダ名 : file:///C:/Program%20Files/Java/jre1.8.0_25/lib/applet/

・64bit PCの場合

フォルダ名 : C:\Program Files (x86)\Java\jre1.8.0_25\lib\applet\
 置換後のフォルダ名 : file:///C:/Program%20Files%20(x86)/Java/jre1.8.0_25/lib/applet/

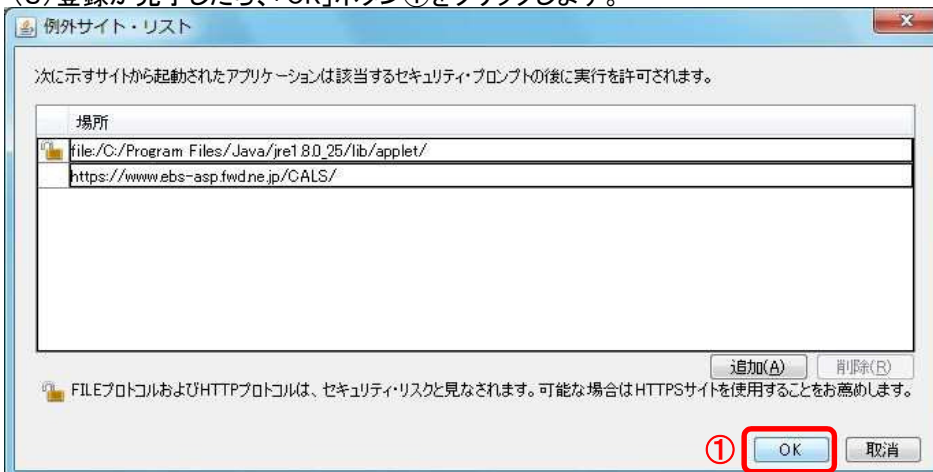
(*)置換条件

- ・ 半角スペースがある場合は、「%20」に置き換える
- ・ 「¥」は「/」に置き換える
- ・ 先頭に「file:/」を付ける

登録する際に、以下のようなセキュリティ警告がでる場合があります。「続行」を選択してください。



- (3)登録が完了したら、「OK」ボタン①をクリックします。



※本手順は参考資料です。認証局によって登録するURLが異なる場合があります。詳細の設定方法に関しては、ご利用の各認証局へお問い合わせください。